

醫學自生自

平成 28 年度

大学院

医学研究科医科学専攻

(修士課程)

教育要項(シラバス)

大学院医科学専攻主任（修士課程）のメッセージ

医科学専攻主任 伊藤 正裕

医学とは、人体の構造や機能、疾病について学び、理解し、疾病に対する予防、診断、治療などについて研究を行う学問であります。

本学では2013年に、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要能力を養うことを目的として修士課程が設立されました。修士課程は、「幅広く深い学識の涵養を図り、研究能力又はこれに加えて高度の専門的な職業を担うための卓越した能力を培う課程」です。本学大学院修士課程では、医学部医学科以外の理科系学部生命科学関連学科を卒業された方々が、医学研究遂行に必要な医学知識を習得した上で、医科学研究の土台作りができることを意識し、カリキュラムが編成されています。2年間の修士課程を「医学総論」「基礎生命科学」「生体機能医学」「医学特別研究」「選択科目」の5つのセクションに分けることによって、多様な進路に対応し、学生各人が自分の目指す専門職種と最も関連の深い医学・医療分野の現状と今後の展望を把握できることを目標としております。

本学修士課程にて医学を志した皆様には、建学以来、本学が大切にしている「自主自学」の精神のもとに、積極的に医学を学び、研究を遂行していただきたいと考えております。皆様が、本大学院生活を通じて、活力、想像力、人間性豊かな総合判断力を備えられ、修士号取得後には、国際的な視点を持って、医学の発展を通して人類に貢献・寄与していく人材として活躍されることを願ってやみません。

— 目 次 —

アドミッションポリシー	1
大学院学則	2
教育方法、研究指導の方法及び修了要件	20
加入保険等	21
授業時間割表	23
シラバス	
医学特論Ⅰ（総論）	26
医学特論Ⅱ（生命倫理）	28
医学特論Ⅲ（医学英語）	30
医学特論Ⅳ（医科学一般）	32
基礎生命科学特論	34
分子細胞生物学特論	36
分子病態学特論	38
生体機能医学特論Ⅰ（分子生理学）	40
生体機能医学特論Ⅱ（分子病理学）	42
生体機能医学特論Ⅲ（神経解剖学）	44
生体機能医学特論Ⅳ（分子薬理学）	46
生体機能医学特論Ⅴ（感染症学）	48
生体機能医学特論Ⅵ（分子免疫学）	50
公衆衛生学特論	52
生体病態医学特論Ⅰ（リウマチ膠原病・神経内科学）	54
生体病態医学特論Ⅱ（法医学）	58
生体病態医学特論Ⅲ（循環器病学）	60
生体病態医学特論Ⅳ（呼吸器・甲状腺学）	62
医療安全管理学特論	64
医学教育学特論	66
人体構造学特論	68
選択科目履修届	71
東京医科大学大学院研究科委員会規程	73
オフィスアワー一覧	74

【アドミッション・ポリシー】

本学医学研究科の理念と「自主自学」の建学の精神に基づき、医学部医学科以外の卒業生（学士）が医学研究または医学・医療分野の専門職に従事するために必要な知識と研究技能を習得し、今後の医科学研究活動あるいはその他の高度に専門的な業務に従事することを通して社会貢献できる人間性豊かな人材育成を目指している。これより下記のような意欲のある人物を求めている。

1. 本学の校是である「正義・友愛・奉仕」の精神を有する人
2. 医科学的知見を学び、高い研究倫理に則り将来医科学研究を進める意欲のある人
3. 医科学領域において、基礎的あるいは臨床的な先端的研究を推進する意欲のある人
4. 基礎的な医科学研究成果を臨床応用する意欲のある人
5. 進取の気概をもって独創的研究を行い、従来の学術水準に新知見を加え、将来、医科学研究の指導者として活躍しようとする意欲のある人

【カリキュラム・ポリシー】

医学研究または医学・医療分野の専門職に従事するために必要とされる基本的医学知識と研究技能を2年間で習得できる教育課程を提供する。すべての学生は、入学時に専攻分野を選択し、必要な講義実習を受けるとともに、専攻分野の研究室に所属して指導教員のもと研究に従事し、修士論文を作成する。

必修の講義科目は、生命科学を研究するうえで必要とされる医科学領域の基礎的知識全般をバランスよく習得するため、「医学特論Ⅰ－Ⅳ」「基礎生命科学特論」「分子細胞生物学特論」「分子病態学特論」「生体機能医学特論Ⅰ－Ⅵ」「公衆衛生学特論」の6科目を設けている。

さらに専攻分野に関する選択講義科目として「生体病態医学特論Ⅰ－Ⅳ」「医療安全学特論」「医学教育学特論」「人体構造学特論」を設置し、専門性の高い先端知識の習得を目指す。

専攻分野の研究室では、指導教員より実際の研究活動を通じて研究ならびに論文作成の指導を受け、研究内容は「少なくとも将来学術論文として学術誌に掲載されうる内容を含むこと」を指導指針としている。

【ディプロマ・ポリシー】

研究科の定める期間在学で、設定した授業科目の履修により基準となる単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受け、研究科が行う修士論文審査および最終試験で「合格」と認定されることを修了要件とする。

1. 研究の背景・目的の意義を科学的に説明できる
2. 研究結果を論理的に解釈し、考察、結論できる
3. 専攻分野の普遍的および最新の知識が十分である
4. 論理的に思考し、質疑応答する能力がある

東京医科大学大学院学則

第1章 総則

(目的)

第1条 東京医科大学大学院（以下「本大学院」という。）は、教育基本法及び学校教育法に基づき、先端的な研究の高度化を推進し、新しい時代に即応した人材を育成することを目的とする。

(課程)

第2条 本大学院の課程は、修士課程及び博士課程とする。

- 2 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を受け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な能力を養うことを目的とする。
- 3 博士課程は、学術の理論及び応用を教授し、創造性、活力、人間性豊かな総合判断力、かつ国際的な視点を有し、医学の発展を通して人類に貢献・寄与しうる指導力を兼ね備えた人材を養成することを目的とする。

(研究科及び専攻)

第3条 本大学院に、医学研究科（以下「研究科」という。）を設け、次の専攻を置く。

(1) 医科学専攻

医科学専攻は、基礎医科学分野の知識を統合的に習得させ、医科学研究を実践することで、多様な医学・医療関連の分野で活躍できる医学研究者及び医学研究に関連する業務に携わる人材を養成する。

(2) 形態系専攻

形態系専攻は、人体構造学、組織・神経解剖学、人体病理学、分子病理学及び微生物学の5分野からなり、人体の臓器、組織の解剖学的研究、疾患に対する病理学的アプローチまで主に形態学的観点から人体の構造と病態の解明に取組み、基礎及び臨床医学の発展に寄与できる能力を有する人材を養成する。

(3) 機能系専攻

機能系専攻は、細胞生理学、神経生理学、生化学、薬理学及び免疫学の5分野からなり薬物の生体に与える作用機序の解明、中枢神経系への生理学的アプローチ、免疫反応の仕組みなど生体機能、生体防御に関わる研究を行い、研究指導者や大学等の教員となりうる人材を養成する。

(4) 社会医学系専攻

社会医学系専攻は、公衆衛生学、健康増進スポーツ医学、法医学、医療の質・安全管理学及び医学教育学の5分野からなり、疫学的研究、心身の健康維持、医療事故の現状と予防対策を構築できる人材を養成するとともに、新しい教育の開発や導入、教育活動の改革を促進できる能力を養成する。

(5) 内科系専攻

内科系専攻は、血液内科学、呼吸器内科学、循環器内科学、糖尿病・代謝・内分泌・リウマチ・膠原病内科学、神経内科学、消化器内科学、内科系、精神医学、小児科学、皮膚科学、放射線医学、臨床検査医学、高齢総合医学、腎臓内科学、総合診療医学及び渡航者医療学の

16分野からなり、各分野の医療を実践できる専門医認定医と高度な水準の医学研究に基づいた研究マインドと指導力を兼ね備えた研究指導者を養成する。

(6) 外科系専攻

外科系専攻は、呼吸器・甲状腺外科学、乳腺科学、心臓血管外科学、消化器・小児外科学、消化器外科学、消化器外科・移植外科学、整形外科学、眼科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉科学、産科婦人科学、麻酔科学、脳神経外科学、口腔外科学、形成外科学及び救急・災害医学の16分野からなり、疾病に対して観血的手技を用いて人体の回復を図ることが中心となる。したがって、外科学的な基本知識と技能を学び、その知識、技能を基に実践につながる応用力、未解明分野を研究する臨床医及び研究指導者を養成する。

(7) 社会人大学院・臨床研究系専攻

社会人大学院・臨床研究系専攻は、血液内科学、呼吸器内科学、循環器内科学、糖尿病・代謝・内分泌・リウマチ・膠原病内科学、神経内科学、消化器内科学、内科系、精神医学、小児科学、皮膚科学、放射線医学、臨床検査医学、高齢総合医学、腎臓内科学、総合診療医学、渡航者医療学、呼吸器・甲状腺外科学、乳腺科学、心臓血管外科学、消化器・小児外科学、消化器外科学、消化器外科・移植外科学、整形外科学、眼科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉科学、産科婦人科学、麻酔科学、脳神経外科学、口腔外科学、形成外科学及び救急・災害医学の32分野からなり、優秀な人材を求めるため広く社会に門戸を開き、優秀な臨床医及び研究指導者を養成する。

(8) 社会人大学院・研究系専攻

社会人大学院・研究系専攻は、人体構造学、組織・神経解剖学、人体病理学、分子病理学、微生物学、細胞生理学、神経生理学、生化学、薬理学、免疫学、免疫制御学、公衆衛生学、健康増進スポーツ医学、法医学、医療の質・安全管理学及び医学教育学の16分野からなり優秀な人材を求めるため広く社会に門戸を開き、優秀な医学教育者及び研究指導者を養成する。

(学生定員)

第4条 医学研究科の各専攻の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

課 程	専 攻 名	入学定員	収容定員
修士課程	医科学専攻	10名	20名
博士課程	形態系専攻	10名	40名
	機能系専攻	10名	40名
	社会医学系専攻	4名	16名
	内科系専攻	10名	40名
	外科系専攻	10名	40名
	社会人大学院・臨床研究系専攻	20名	80名
	社会人大学院・研究系専攻	4名	16名
	小 計	68名	272名
合 計	78名	292名	

第2章 修業年限、在学年限、学年及び学期等

(修業年限)

第5条 標準修業年限は、修士課程にあつては2年、博士課程にあつては4年とする。

(在学年限)

第6条 在学年限は、修士課程にあつては4年を、博士課程にあつては8年を超えることはできない。

(学年、学期及び休業日)

第7条 学年、学期及び休業日は、東京医科大学学則（以下「大学学則」という。）第16条、第17条及び第18条の規定を準用する。

第3章 教育方法、授業科目及び単位並びに履修方法等

(教育方法)

第8条 本大学院における教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導によって行うものとする。

(授業科目及び単位)

第9条 医科学専攻の授業科目及び単位等は、別表1のとおりとする。

2 第3条第2号から第8号までの各専攻の授業科目及び単位等は、別表2の1及び2の2のとおりとする。

(履修方法等)

第10条 本大学院における研究指導の内容及び履修方法等は、別に定める。

(成績の評価)

第11条 成績の評価は、A・B・C・Dの4種とし、A・B・Cを合格、Dを不合格とする。

(他の大学院等における授業科目の履修)

第12条 本大学院の教育上特に有益と認めるときは、他の大学院、研究所等の長と協議のうえ、学生に当該大学院、研究所等における授業科目の授業又は研究指導を受けさせることができる。ただし、修士課程の学生については、当該研究指導を受けさせることができる期間は、1年を超えないものとする。

2 前項の規定により修得した授業科目及び単位については、修士課程においては4単位を超えない範囲で、博士課程においては8単位を超えない範囲で、本大学院において相当する授業科目及び単位を修得したものとみなすことができる。

第4章 課程修了要件及び学位

(課程の修了要件)

第13条 修士課程の修了要件は、本大学院修士課程に2年以上在学して30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学年数に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

2 博士課程の修了要件は、本大学院博士課程に4年以上在学して30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学年数に関しては、優れた研究業績を上げた者については、3年以上在学すれば足りるもの

とする。

(課程修了の認定及び成績評価)

第14条 課程修了の認定は、研究科長が行う。

2 学位論文の審査及び最終試験の成績評価は、第49条に定める研究科委員会の審査に基づいて、研究科長が行う。

3 科目試験、学位論文の審査及び最終試験の成績評価の基準は、研究科委員会の定めるところによる。

(学位授与)

第15条 学長は、修士課程を修了した者には、修士（医科学）の学位を、博士課程を修了した者には、修士（医科学）の学位を授与する。

第16条 第13条第2項及び前条（修士課程に係る部分を除く。）の規定により学位を授与される者と同等以上の内容を有する論文を提出し、その審査及び試験等に合格した者に対しても、博士（医学）の学位を授与することができる。

第17条 学位の授与に関して必要な事項は、別に定める。

第5章 入学、再入学及び転入学

(入学資格)

第18条 修士課程に入学することのできる者は、次のとおりとする。

(1)大学を卒業した者

(2)専修学校の専門課程を修了した者で、高度専門士の称号を授与されたもの

(3)外国において、学校教育における16年の課程を修了した者

(4)外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

(5)我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

(6)昭和28年文部省告示第5号をもって文部科学大臣の指定した者

(7)学校教育法第68条の2第4項の規定により学士の学位を授与された者

(8)研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達したもの

2 博士課程に入学することのできる者は、次のとおりとする。

(1)大学（6年制の医学、歯学、獣医学又は薬学の課程。以下この項において同じ。）を卒業した者

(2)修士の学位又は専門職学位を有する者

(3)外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(4)外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(5)我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(6)国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51

年法律第72号) 第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者

(7)昭和30年文部省告示第39号をもって文部科学大臣の指定した者

(8)平成元年文部省告示第118号をもって文部科学大臣の指定した者

(9)研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したもの

(入学の時期)

第19条 入学の時期は、原則として学年の始めとする。

(入学の出願)

第20条 大学院の入学志願者は、所定の入学願書に所定の入学審査料及び別に定める書類を添えて、指定する期日までに本学に願出しなければならない。

(入学者の選考)

第21条 入学者の選考は、論文審査、面接、その他の方法による。

2 その他入学者の選考について必要な事項は、別に定める。

(入学手続)

第22条 前条の選考に合格した者は、指定する期日までに、入学金及び授業料を納入するとともに所定の書類を添えて入学の手続きを完了しなければならない。

(入学の許可)

第23条 学長は、前条の手続きを完了した者につき、入学を許可する。

(再入学)

第24条 本大学院を中途において退学した者で、再び同一専攻に入学を志願する者には、退学後2年以内に限り、これを許可することがある。

2 再入学した者の在籍年次、既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、研究科委員会において決定する。

(転入学)

第25条 他の大学院の学生が本大学院に転入学しようとするときは、当該大学院設置の大学の学長又は所属研究科長の紹介状を添えて、学長に転入学願を提出しなければならない。

2 前項の願出があったときは、欠員ある場合に限り、選考のうえ許可することがある。

3 転入学した者の在籍年次、既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、研究科委員会において決定する。

第6章 休学、転学、退学及び除籍等

(休学)

第26条 疾病その他やむを得ない事由により、引き続き3か月以上修学できない見込みの者は、所定の手続により、学長の許可を得て休学することができる。

2 疾病等のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

(休学期間)

第27条 休学の期間は1年を超えることができない。ただし、やむを得ない事由があるときは、許可を得て更に1年以内に限り、期間を延長することができる。

2 休学の期間は、修士課程にあつては通算して2年、博士課程にあつては通算して3年を超えることができない。

3 休学の期間は、修業年限並びに在学年限に算入しない。

(復学)

第28条 休学期間が満了するとき、及び休学期間中であっても、その事由が消滅した場合には、保証人連署のうえ、所定の復学願を学長に提出し、研究科委員会の議を経て学長の許可を得なければならない。

2 疾病が治癒して復学する者は、本大学病院の健康診断書を、その他の場合は、その事由が解消された証明書又は理由書を添付しなければならない。

(転学)

第29条 本大学院から他の大学院へ転学しようとする者は、所定の手続により、学長に願い出て許可を受けなければならない。

(退学)

第30条 退学しようとする者は、その事由を付して、保証人連署のうえ、所定の様式により学長に願い出て、許可を受けなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、学長は、学生が疾病その他の事由で成業の見込みがないと認めたときは、退学を命ずることができる。

(除籍)

第31条 次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。

- (1)学生納付金の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (2)第6条に定める在学年限を超えた者
- (3)第27条第2項に定める休学の期間を超えてもなお修学できない者
- (4)長期間にわたり行方不明の者
- (5)死亡した者

第7章 専攻の変更

(変更)

第32条 博士課程の専攻の変更は、原則として認めない。ただし、特別の事情がある場合は、学長が専攻の変更を許可することがある。

第33条 専攻を変更した後の在学すべき年限及び既修得単位の認定等については、当該学生の履修状況等を勘案して、学長が決定する。

2 前項により修業年限を変更された場合であっても、第6条に定める博士課程の在学年限を超えることができない。

第8章 表彰及び懲戒

(表彰)

第34条 学長は、学業及び操行が優秀で他の学生の模範となる学生を表彰することができる。

(懲戒)

第35条 学長は、学生が大学院学則その他の規程に違反し、若しくは秩序を乱し、又は学生の本分に反する行為があったときは、当該学生を懲戒することができる。

- 2 懲戒は、情状により戒告、停学及び退学とする。
- 3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。
 - (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 学業劣等で成業の見込みがないと認められる者
 - (3) 正当の理由なくして出席常でない者
 - (4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者
- 4 停学の期間は、在学年限に算入し、修業年限には算入しないものとする。ただし、停学期間が3か月未満の場合は、修業年限に算入することができる。
- 5 懲戒に関する手続きは、別に定める。

第9章 研究生、専攻生、聴講生、委託生及び外国人留学生

(研究生及び専攻生)

第36条 本大学院において、特定の課題について研究することを志願する者があるときは、大学院の教育研究に支障のない限り、選考のうえ、研究生及び専攻生として入学を許可することがある。

- 2 研究生及び専攻生を志願することのできる者は、大学（6年制の医学、歯学、獣医学又は薬学の課程）卒業した者、又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。
- 3 その他、研究生及び専攻生に関して必要な事項は、別に定める。

(聴講生)

第37条 特定の授業科目の聴講を願い出る者のあるときは、教育に支障がない限り、聴講生として入学を許可することがある。

- 2 その他、聴講生に関して必要な事項は、別に定める。

(委託生)

第38条 官庁又は公共団体等から1学期以上を在学期間とし、学修する授業科目を指定して教育の委託の願い出のあるときは、選考のうえ、委託生として入学を許可することがある。

- 2 その他、委託生に関して必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第39条 外国人で、大学において教育を受ける目的で入国し、本大学院に入学を志願する者があるときは、選考のうえ、外国人留学生として入学を許可する。

- 2 その他、外国人留学生に関して必要な事項は、別に定める。

第10章 入学考査料及び学生納付金

(入学考査料及び学生納付金)

第40条 入学考査料及び学生納付金の額は、別表3のとおりとする。

- 2 学生納付金は、次の前期の所定の期日までに全納するか、又は次の2期の所定の期日までに等分して納入しなければならない。ただし、特別の事情がある場合には、期限を定めて納入の延期を認めることがある。

前期 4月30日まで

後期 10月31日まで

- 3 停学の懲戒を受けた者に係る学生納付金は、停学期間中であってもこれを徴収する。

- 4 休学を許可された者に係る学生納付金は、事情により減免することがある。
- 5 前項の減免に当たっては、研究科委員会の議を経て、学長が決定する。
- 6 学年の中途において退学し、転学し、又は退学を命ぜられた者であっても、当該年度の学生納付金を納めなければならない。
- 7 学生納付金の滞納者は、納入後でなければ単位認定のための試験を受けることができない。
(免除等)

第41条 学業優秀である者又は経済的理由によって納付が困難な者に対しては、学生納付金の一部又は全部を免除することがある。

- 2 再入学者の入学金は、免除することがある。
(研究生、専攻生、聴講生及び委託生の入学考査料及び学生納付金)

第42条 研究生、専攻生、聴講生及び委託生の入学考査料及び学生納付金の額は、別表4のとおりとする。
(授業料等の返還)

第43条 納付した入学考査料及び学生納付金は、返還しない。ただし、入学許可を得た者で、指定の期日までに入学辞退を届け出た者については、入学金又はこれに相当する金額を除き授業料等を返還することがある
(奨学生)

第44条 品行方正で学力優秀な学生で、他の学生の模範となると認められた学生を奨学生とすることがある。
2 奨学生に対しては、授業料の額の一部を給付するものとする。

第11章 職員組織

(研究科長、専攻主任、教育職員等)

第45条 本大学院の医学研究科に、研究科長を置く。

- 2 研究科長は、研究科を統括する。
- 3 研究科長は、学長がこれを兼ねることができる。

第46条 医学研究科の各専攻に、専攻主任を置く。

- 2 専攻主任は、当該専攻を統括する。

第47条 本大学院における授業及び研究指導は、主任教授が行う。ただし、特別な事情がある場合には、教授、臨床教授、准教授、臨床准教授、講師、臨床講師若しくは助教又は学外から招聘する講師に担当させることがある。

(事務職員)

第48条 本大学院の事務を処理するため、事務職員若干名を置く。

第12章 運営組織

(医学研究科委員会)

第49条 研究科に、医学研究科委員会を置く。

- 2 医学研究科委員会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり審議し、意見を述べるものとする。
 - (1) 大学院学則その他大学院に係る規程等の制定、改廃に関する事項

- (2) 本大学院の組織の設置及び改廃に関する事項
 - (3) 入学、転学、退学、休学及び留学等学生の身分に関する事項
 - (4) 課程の修了及び学位の授与に関する事項
 - (5) 入学試験に関する事項
 - (6) 学生の試験及び評価に関する事項
 - (7) 教育課程の編成に関する事項
- 3 研究科委員会は、前項に規定するもののほか、教育研究に関する次に掲げる事項について審議し、学長の求めに応じ、意見を述べることができる。
- (1) 学生の表彰及び懲戒に関する事項
 - (2) 学生の厚生補導に関する事項
 - (3) 本大学院に係る教育職員の選出に関する事項
 - (4) 学生納付金の減免に関する事項
 - (5) その他、本大学院の教育・研究に関する重要事項
- 4 その他、医学研究科委員会の運営に関して必要な事項は、別に定める。
(委員会)

第50条 研究科委員会は、必要に応じて委員会を設けることができる。

- 2 研究科委員会に置く委員会に関する事項は、別に定める。

第13章 研究指導施設

第51条 本大学院に、学生研究室及び実験実習室を置く。

- 2 学部及び附属施設の施設は、必要に応じ大学院の学生の研究及び指導のために用いる。

第14章 補 則

第52条 この学則に定めるもののほか、この学則の実施のために必要な規程等は、別に定める。

附 則

- 1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 この学則の施行に伴い、昭和32年4月1日制定の「東京医科大学大学院学則」は、廃止する。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成24年4月1日以前に入学した者の学科目及び単位は、なお従前の例による。
- 4 平成25年度の医科学専攻（修士課程）の収容定員は、第4条の規定にかかわらず、10名とする。

附 則（平成26年4月1日）

この学則は、平成26年4月1日から施行する。（第3条第3号、第5号、第6号、第7号、第9条第2項、第12条第2項、別表2の1の改正及び別表2の2の新設）

附 則（平成27年4月1日）

この学則は、平成27年4月1日から施行する。（第31条、第32条、第33条、第34条、第35条、第49条の改正）

附 則（平成28年4月1日）

この学則は、平成28年4月1日から施行する。（別表1の改正）

別表 1

教育課程表								
医学研究科医科学専攻（修士課程）								
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験実習
専 門 科 目	医学特論Ⅰ（総論）	1前	1			○		
	医学特論Ⅱ（生命倫理）	1前	1			○		
	医学特論Ⅲ（医学英語）	1前	1			○		
	医学特論Ⅳ（医科学一般）	1前	1			○		
	基礎生命科学特論	1前	2			○		
	分子細胞生物学特論	1前	2			○		
	分子病態学特論	1前	2			○		
	生体機能医学特論Ⅰ（分子生理学）	1前	2			○		
	生体機能医学特論Ⅱ（分子病理学）	1前	2			○		
	生体機能医学特論Ⅲ（神経解剖学）	1後	2			○		
	生体機能医学特論Ⅳ（分子薬理学）	1前	2			○		
	生体機能医学特論Ⅴ（感染症学）	1前	2			○		
	生体機能医学特論Ⅵ（分子免疫学）	1前	2			○		
	公衆衛生学特論	1後	2			○		
	生体病態医学特論Ⅰ （リウマチ膠原病・神経内科学）	1後		1		○		
	生体病態医学特論Ⅱ （法医学）	1後		1		○		
	生体病態医学特論Ⅲ （循環器病学）	1後		2		○		
	生体病態医学特論Ⅳ （呼吸器・甲状腺学）	1後		2		○		
	医療安全管理学特論	1後		2		○		
	医学教育学特論	1後		2		○		
人体構造学特論	1後		1		○			
医科学特別研究	1～2	4				○		
合 計	—	—	28	11	0	—	—	
修了要件及び履修方法								
30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。								

別表2の1

教育課程表									
(医学研究科博士課程)									
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		授業形態			備 考	
			必修	選択	講義	演習	実験実習		
基礎 科目	共通基礎特講	1	1		○			基礎系のみ	
	共通基礎特実	1		1			○		
	小計 (2科目)	—	1	1		—			
共通 科目 I	医学英語コミュニケーション	1～3	0.5		○			医学会総会出席	
	先端医科学特講	1～3	0.5		○				
	特別必修 I	1～3	1			○			
	医療統計学特講	1～3		2	○				
	医学研究における法と倫理特講	1～3		1	○				
	特別選択 I	1～3		2		○			内外の研究会、学位公開審査会出席、 学外学会出席等
小計 (6科目)		—	2	5		—			
専 門 科 目	形態系専攻	人体構造学	1～3	5		○			
			1～3	13			○		
		組織・神経解剖学	1～3	5		○			○
			1～3	13					○
		人体病理学	1～3	5		○			○
			1～3	13					○
	機能系専攻	分子病理学	1～3	5		○			○
			1～3	13					○
		微生物学	1～3	5		○			○
			1～3	13					○
		細胞生理学	1～3	5		○			○
			1～3	13					○
	社会医学系専攻	病態生理学	1～3	5		○			○
			1～3	13					○
		生化学	1～3	5		○			○
			1～3	13					○
		薬理学	1～3	5		○			○
			1～3	13					○
	内科系専攻	免疫学	1～3	5		○			○
			1～3	13					○
		公衆衛生学	1～3	5		○			○
			1～3	13					○
		健康増進スポーツ医学	1～3	5		○			○
			1～3	13					○
内 科 系 専 攻	法医学	1～3	5		○		○		
		1～3	13				○		
	医療の質・安全管理学	1～3	5		○		○		
		1～3	13				○		
	医学教育学	1～3	5		○		○		
		1～3	13				○		
	血液・呼吸器内科学	1～3	5		○		○		
		1～3	13	1			○		
	循環器内科学	1～3	5		○		○		
		1～3	13	1			○		
	糖尿病・代謝・内分泌・膠原病 ・アレルギー・神経内科学	1～3	5		○		○		
		1～3	13	1			○		
消化器内科学	1～3	5		○		○			
	1～3	13	1			○			
呼吸器内科学・代謝内科学	1～3	5		○		○			
	1～3	13	1			○			
精神医学	1～3	5		○		○			
	1～3	13	1			○			
小児科学	1～3	5		○		○			
	1～3	13	1			○			
皮膚科学	1～3	5		○		○			
	1～3	13	1			○			
放射線医学	1～3	5		○		○			
	1～3	13	1			○			
臨床検査医学	1～3	5		○		○			
	1～3	13	1			○			
加齢医学	1～3	5		○		○			
	1～3	13	1			○			

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		授業形態			備 考
			必修	選択	講義	演習	実験実習	
専 門 科 目	外科系専攻	呼吸器・甲状腺外科学	1～3	5		○		
		1～3	13	1			○	
		心臓・血管外科学	1～3	5		○		
		1～3	13	1			○	
		消化器外科学・小児外科学	1～3	5		○		
		1～3	13	1			○	
		消化器外科学・一般外科学	1～3	5		○		
		1～3	13	1			○	
		消化器外科学・移植外科学	1～3	5		○		
		1～3	13	1			○	
		整形外科学	1～3	5		○		
		1～3	13	1			○	
		眼科学	1～3	5		○		
		1～3	13	1			○	
	泌尿器科学	1～3	5		○			
	1～3	13	1			○		
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1～3	5		○			
	1～3	13	1			○		
	産科婦人科学	1～3	5		○			
	1～3	13	1			○		
	麻酔科学・生体侵襲制御学	1～3	5		○			
	1～3	13	1			○		
	脳神経外科学	1～3	5		○			
	1～3	13	1			○		
	口腔外科学	1～3	5		○			
	1～3	13	1			○		
	形成外科学	1～3	5		○			
	1～3	13	1			○		
緊急・災害医学	1～3	5		○				
1～3	13	1			○			
社 会 人 大 学 院 ・ 臨 床 研 究 系	血液・呼吸器内科学	1～3	5		○			
	1～3	13	1			○		
	循環器内科学	1～3	5		○			
	1～3	13	1			○		
	糖尿病・代謝・内分泌・膠原病 ・アレルギー・神経内科学	1～3	5		○			
	1～3	13	1			○		
	消化器内科学	1～3	5		○			
	1～3	13	1			○		
	呼吸器内科学・代謝内科学	1～3	5		○			
	1～3	13	1			○		
	精神医学	1～3	5		○			
	1～3	13	1			○		
	小児科学	1～3	5		○			
	1～3	13	1			○		
	皮膚科学	1～3	5		○			
	1～3	13	1			○		
	放射線医学	1～3	5		○			
	1～3	13	1			○		
	臨床検査医学	1～3	5		○			
	1～3	13	1			○		
	加齢医学	1～3	5		○			
	1～3	13	1			○		
呼吸器・甲状腺外科学	1～3	5		○				
1～3	13	1			○			
心臓・血管外科学	1～3	5		○				
1～3	13	1			○			
消化器外科学・小児外科学	1～3	5		○				
1～3	13	1			○			
消化器外科学・一般外科学	1～3	5		○				
1～3	13	1			○			
消化器外科学・移植外科学	1～3	5		○				
1～3	13	1			○			
整形外科学	1～3	5		○				
1～3	13	1			○			
眼科学	1～3	5		○				
1～3	13	1			○			
泌尿器科学	1～3	5		○				
1～3	13	1			○			

専門科目は1科目18単位以上取得

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		授業形態			備 考
			必修	選択	講義	演習	実験実習	
専 門 科 目	社会人大学院・臨床研究系	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1～3	5		○		
			1～3	13	1			○
		産科婦人科学	1～3	5		○		
			1～3	13	1			○
		麻醉科学・生体侵襲制御学	1～3	5		○		
			1～3	13	1			○
		脳神経外科学	1～3	5		○		
			1～3	13	1			○
	口腔外科学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
	形成外科学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
	緊急・災害医学	1～3	5		○			
		1～3	13	1			○	
	社会人大学院・研究系	人体構造学	1～3	5		○		
			1～3	13				○
		組織・神経解剖学	1～3	5		○		
			1～3	13				○
		人体病理学	1～3	5		○		
			1～3	13				○
		分子病理学	1～3	5		○		
			1～3	13				○
		微生物学	1～3	5		○		
			1～3	13				○
		細胞生理学	1～3	5		○		
			1～3	13				○
		病態生理学	1～3	5		○		
			1～3	13				○
		生化学	1～3	5		○		
			1～3	13				○
薬理学		1～3	5		○			
		1～3	13				○	
免疫学	1～3	5		○				
	1～3	13				○		
公衆衛生学	1～3	5		○				
	1～3	13				○		
健康増進スポーツ医学	1～3	5		○				
	1～3	13				○		
法医学	1～3	5		○				
	1～3	13				○		
医療の質・安全管理学	1～3	5		○				
	1～3	13				○		
医学教育学	1～3	5		○				
	1～3	13				○		
	小計(1科目)	—	18	1				
共 通 科 目 Ⅱ	特別必修Ⅱ	1～3	1			○		学外学会発表：筆頭演者
	特別必修Ⅲ	3～4	1			○		医学会総会発表
	特別選択Ⅱ	1～3		0.5		○		邦文論文発表（共著者：2論文以上）
	特別選択Ⅲ	1～3		0.5		○		英文論文発表（共著者：1論文以上）
	特別選択Ⅳ	1～3		1		○		学外学会発表：共同演者
	学位論文作成	1～3	3			○		
	小計(6科目)	—	5	2				
	小計(15科目)	—	26	9以上				
修了要件及び履修方法								
基礎科目から1単位以上、共通科目Ⅰから4単位以上、専門科目18単位以上、共通科目Ⅱから6単位以上を修得し、計30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。								
備 考								
○次世代型がん低侵襲治療専門医育成コース及び総合臨床腫瘍医育成コースについては、別に定める。								

別表2の2

教育課程表								
(医学研究科博士課程)			(平成26年度入学者から適用)					
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		授業形態			備 考
			必修	選択	講義	演習	実験実習	
専 門 科 目	形態系専攻	人体構造学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
		組織・神経解剖学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
		人体病理学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
	機能系専攻	分子病理学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
		微生物学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
		細胞生理学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
	社会医学系専攻	病態生理学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
		生化学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
		薬理学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
	社会医学系専攻	免疫学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
		公衆衛生学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
		健康増進スポーツ医学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
	内科系専攻	法医学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
		医療の質・安全管理学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
		医学教育学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
	内科系専攻	血液内科学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
		呼吸器内科学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
		循環器内科学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
糖尿病・代謝・内分泌 ・リウマチ・膠原病内科学		1～3	6		○			
		1～3	14				○	
神経内科学		1～3	6		○			
		1～3	14				○	
消化器内科学		1～3	6		○			
		1～3	14				○	
内科系		1～3	6		○			
		1～3	14				○	
精神医学		1～3	6		○			
		1～3	14				○	
小児科学		1～3	6		○			
		1～3	14				○	
皮膚科学	1～3	6		○				
	1～3	14				○		
放射線医学	1～3	6		○				
	1～3	14				○		
臨床検査医学	1～3	6		○				
	1～3	14				○		
高齢総合医学	1～3	6		○				
	1～3	14				○		
腎臓内科学	1～3	6		○				
	1～3	14				○		
総合診療医学	1～3	6		○				
	1～3	14				○		
渡航者医療学	1～3	6		○				
	1～3	14				○		

専門科目は1科目20単位以上取得

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		授業形態			備 考
			必修	選択	講義	演習	実験実習	
専 門 科 目	外科系専攻	呼吸器・甲状腺外科学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
		乳腺科学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
		心臓血管外科学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
		消化器・小児外科学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
		消化器外科学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
		消化器外科・移植外科学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
		整形外科	1～3	6		○		
			1～3	14				○
		眼科学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
		泌尿器科学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
	耳鼻咽喉科学	1～3	6		○			
		1～3	14				○	
	産科婦人科学	1～3	6		○			
		1～3	14				○	
	麻酔科学	1～3	6		○			
		1～3	14				○	
	脳神経外科学	1～3	6		○			
		1～3	14				○	
	口腔外科学	1～3	6		○			
		1～3	14				○	
	形成外科学	1～3	6		○			
		1～3	14				○	
	救急・災害医学	1～3	6		○			
		1～3	14				○	
	社会人大学院・臨床研究系	血液内科学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
		呼吸器内科学	1～3	6		○		
			1～3	14				○
循環器内科学		1～3	6		○			
		1～3	14				○	
糖尿病・代謝・内分泌 ・リウマチ・膠原病内科学		1～3	6		○			
		1～3	14				○	
神経内科学		1～3	6		○			
		1～3	14				○	
消化器内科学		1～3	6		○			
		1～3	14				○	
内科系		1～3	6		○			
		1～3	14				○	
精神医学		1～3	6		○			
		1～3	14				○	
小児科学		1～3	6		○			
		1～3	14				○	
皮膚科学		1～3	6		○			
		1～3	14				○	
放射線医学		1～3	6		○			
		1～3	14				○	
臨床検査医学		1～3	6		○			
		1～3	14				○	
高齢総合医学	1～3	6		○				
	1～3	14				○		
腎臓内科学	1～3	6		○				
	1～3	14				○		
呼吸器・甲状腺外科学	1～3	6		○				
	1～3	14				○		
乳腺科学	1～3	6		○				
	1～3	14				○		
心臓血管外科学	1～3	6		○				
	1～3	14				○		
消化器・小児外科学	1～3	6		○				
	1～3	14				○		

専門科目は1科目20単位以上取得

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		授業形態			備 考
			必修	選択	講義	演習	実験実習	
専 門 科 目	社 会 人 大 学 院 ・ 臨 床 研 究 系	消化器外科学	1～3	6		○		
		1～3	14				○	
		消化器外科・移植外科学	1～3	6		○		
		1～3	14				○	
		整形外科学	1～3	6		○		
		1～3	14				○	
		眼科学	1～3	6		○		
		1～3	14				○	
		泌尿器科学	1～3	6		○		
		1～3	14				○	
		耳鼻咽喉科学	1～3	6		○		
		1～3	14				○	
		産科婦人科学	1～3	6		○		
		1～3	14				○	
		麻酔科学	1～3	6		○		
	1～3	14				○		
	脳神経外科学	1～3	6		○			
	1～3	14				○		
	口腔外科学	1～3	6		○			
	1～3	14				○		
	形成外科学	1～3	6		○			
	1～3	14				○		
	救急・災害医学	1～3	6		○			
	1～3	14				○		
	総合診療医学	1～3	6		○			
	1～3	14				○		
	渡航者医療学	1～3	6		○			
	1～3	14				○		
	社 会 人 大 学 院 ・ 研 究 系	人体構造学	1～3	6		○		
		1～3	14				○	
		組織・神経解剖学	1～3	6		○		
		1～3	14				○	
		人体病理学	1～3	6		○		
1～3		14				○		
分子病理学		1～3	6		○			
1～3		14				○		
微生物学		1～3	6		○			
1～3		14				○		
細胞生理学		1～3	6		○			
1～3		14				○		
病態生理学		1～3	6		○			
1～3		14				○		
生化学		1～3	6		○			
1～3		14				○		
薬理学		1～3	6		○			
1～3		14				○		
免疫学	1～3	6		○				
1～3	14				○			
免疫制御学	1～3	6		○				
1～3	14				○			
公衆衛生学	1～3	6		○				
1～3	14				○			
健康増進スポーツ医学	1～3	6		○				
1～3	14				○			
法医学	1～3	6		○				
1～3	14				○			
医療の質・安全管理学	1～3	6		○				
1～3	14				○			
医学教育学	1～3	6		○				
1～3	14				○			
	小計(1科目)	—	20			—		
コ ー ス ワ ー ク	コースワーク講義・演習	1～3	3		○	○		
	コースワーク実習	1～3	2				○	
	小計(2科目)	—	5			—		

専門科目は1科目20単位以上取得

コースワーク別研究発表及び講義、特別講義出席、医学会総会発表及び出席

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			備考
			必修	選択	講義	演習	実験実習	
共通科目	ステップ1	1	1			○		講義
	ステップ2							
	医学研究における法と倫理	1～3	1			○		
	臨床疫学・医療統計学	1～3	2			○		
	医学英語とプレゼンテーション	1～3	0.5			○		
	グラント申請の書き方・研究資金の確保	1～3	0.5			○		
	小計(5科目)	—	5			—		
	合計(8科目)	—	30			—		
修了要件及び履修方法								
<p>専門科目20単位以上、コースワーク5単位以上、共通科目5単位を修得し、計30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。</p>								
備 考								
○次世代型がん低侵襲治療専門医コース及び総合臨床腫瘍医育成コースについては、別に定める。								

別表3 医学研究科入学考査料及び学生納付金(第40条関係)

課程	専攻名	学年	入学考査料	学生納付金		計
				入学金	授業料	
修士課程	医科学専攻	—	10,000円	—	—	—
		1年次	—	100,000円	400,000円	500,000円
		2年次	—	—	400,000円	400,000円
博士課程	形態系専攻、機能系専攻、 社会医学系専攻、内科系専攻、 外科系専攻、 社会人大学院・臨床研究系専攻、 社会人大学院・研究系専攻	—	10,000円	—	—	—
		1年次	—	100,000円	400,000円	500,000円
		2年次	—	—	400,000円	400,000円
		3年次	—	—	400,000円	400,000円
		4年次	—	—	400,000円	400,000円

別表4 大学院の研究生、専攻生、聴講生及び委託生に係る入学考査料及び学生納付金(第42条関係)

区分	入学考査料	学生納付金	
		入学金	授業料
研究生 専攻生	20,000円	150,000円	年額 300,000円
聴講生	10,000円	100,000円	月額 20,000円
委託生	10,000円	100,000円	月額 20,000円

備考1：本学を卒業した者の研究生及び専攻生の入学金は、100,000円とする。

備考2：上記の学生納付金のほか、実習費として別途徴収することがある。

教育方法、研究指導の方法及び修了要件

1. 修了要件

本専攻の修了要件は、必修科目を含めて30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

2. 研究指導の方法と修了までのスケジュール

1) 研究指導の方法と修了までのスケジュール

研究指導は、以下のようなステップを踏んで進めます。

①入学希望者は、指導を希望する教員と面接し、研究内容等に関する事前相談を行い、了解を得ることとします。



②入学後、直ちに研究指導教員が決定されます。



③学生は、必修科目24単位の履修を開始すると同時に、研究指導担当教員の指導の下で、1年次前期には具体的な研究計画を作成して予備的研究を開始します。
1年次の9月から本格的な研究に着手し、研究内容によっては、本学の医学倫理委員会へ申請を行い、承認を得ることとします。



④2年次の前期終了時点までに研究における一定の成果を挙げることを目指しますが、研究の遂行にあたっては、研究指導担当教員による指導だけでなく、研究室内各グループの報告会に参加して、研究指導担当教員以外のスタッフや大学院（博士課程）学生などから助言を受けます。



⑤2年次の11月医学会総会で研究発表を行います。その後、12月第一水曜日までに、修士論文を提出し、12月の研究科委員会で学位論文審査委員（主査、副査）が決定され、1月の学位論文審査委員会で審査し、2月の研究科委員会の最終審査を経て、合否が決定されます。

学位の質を担保するために、提出された修士論文の研究内容には、「少なくとも将来学術論文として学術雑誌に掲載されうる内容を含むこと」を学位研究指導の指針とします。

医学特別研究予定表		
1年次	4月	入学、研究室配属、研究テーマ決定予備的な研究開始
	9月	本格的な研究開始
2年次	4月	進級
	11月	東京医科大学医学会総会で研究発表
	12月	修士論文提出、修士論文1次審査
	1月	修士論文公開発表会
	2月	修士論文2次審査
	3月	修士課程修了、学位授与式

加入保険等

○加入保険

学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険（入学時に加入しています。）

1. 学生教育研究災害傷害保険普通保険

○学生教育研究災害傷害保険は、学生が教育研究活動中に被った災害に対して必要な給付を行い、大学の教育研究活動の充実・発展に寄与することを趣旨として、昭和51年度から始められた災害補償制度です。

※詳細は以下のURLを参照してください。<http://www.jees.or.jp/gakkensai/index.htm>

2. 学研災付帯賠償責任保険

○学生教育研究災害傷害保険加入者は、学研災付帯賠償責任保険に加入することができます。この賠償責任保険は、国内外において、学生が正課、学校行事およびその往復中で、他人にケガを負わせ、また他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償します。

※詳細は以下のURLを参照してください。

<http://www.jees.or.jp/gakkensai/opt-baisho.htm>

※上記の事故等が発生した場合は医学科学務課大学院係に連絡してください。

○アルバイト

アルバイト等は就学に支障のないように注意してください。

○学生メンタルサポート

<学生相談室>

臨床心理士 花岡敦子

予約連絡先：03-3358-4112（直通） 予約メールアドレス：counselingtmu@yahoo.co.jp

相談日時：大学中央校舎 3F 学生相談室

西新宿キャンパス

月曜日 12：00～13：30

新宿キャンパス

水曜日 16：30～18：00

木曜日 16：30～18：00

<相談窓口>

医学研究科長 宮澤啓介（生化学） 連絡先：03-3351-6141（内 243）

医科学専攻主任 伊藤正裕（人体構造学） 連絡先：03-3351-6141（内 281）

学生部長 内野博之（麻酔科学） 連絡先：03-3342-6111（内 5810）

○大学院医学研究科WEB掲示板等

<http://www.tokyo-med.ac.jp/faculty/graduate/>（東京医科大学HP掲示板）

<http://cms.tokyo-med.ac.jp/>（e自主自学）

※ログインには、e-mail（@tokyo-med.ac.jp）アドレスを使用します。

○各種奨学金

- ・日本学生支援機構奨学金（4月中旬頃）
- ・東京医科大学大学院奨学生（11月中旬頃）
- ・その他の奨学金（募集があり次第）

※大学院医学研究科WEB掲示板に掲出しますので確認してください。

※問合せ先

〒160-8402 東京都新宿区新宿6-1-1

東京医科大学医学科学務課大学院係

03-3351-6141（代） 内線 289

d-gakumu@tokyo-med.ac.jp

平成28年度医科学専攻(修士課程) 授業時間割表

○ 1 年前期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限 9:00～10:30	医学特論Ⅰ (総論)(1)	生体機能 医学特論Ⅴ (感染症学)(2)	基礎生命 科学特論(2)	生体機能 医学特論Ⅳ (分子薬理学)(2)	
2 時限 10:40～12:10	医学特論Ⅳ (医科学一般)(1) 五月より開講	基礎生命 科学特論(2)	生体機能 医学特論Ⅱ (分子病理学)(2)	医学特論Ⅱ (生命倫理)(1)	
3 時限 13:10～14:40	生体機能 医学特論Ⅰ (分子生理学)(2)		分子細胞 生物学特論(2)	分子病態学 特論(2)	
4 時限 14:50～16:20	医学特論Ⅲ (医学英語)(1)			生体機能 医学特論Ⅵ (分子免疫学)(2)	
5 時限 16:30～18:00				分子病態学 特論(2)	

○ 1 年後期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限 9:00～10:30				公衆衛生学 特論(2)	
2 時限 10:40～12:10	医療安全 管理学特論(2)			生体機能 医学特論Ⅲ (神経解剖学)(2)	
3 時限 13:10～14:40			人体構造学 (1)	公衆衛生学 特論(2)	
4 時限 14:50～16:20		生体病態 医学特論Ⅱ (法医学)(1)			
5 時限 16:30～18:00		生体病態 医学特論Ⅳ (呼吸器・甲状腺学) (2)	生体病態 医学特論Ⅰ (1)ウマチ膠原病 ・神経内科学 (後半4コマ)(1)	生体病態 医学特論Ⅰ (1)ウマチ膠原病 ・神経内科学 (前半4コマ)(1)	医学教育学 特論(2)
		生体病態 医学特論Ⅲ (循環器病学)(2)			

※()は単位数を示します。(1)は授業回数8回、(2)は15回実施します。

— シラバス —

医学特論Ⅰ（総論）	26
医学特論Ⅱ（生命倫理）	28
医学特論Ⅲ（医学英語）	30
医学特論Ⅳ（医科学一般）	32
基礎生命科学特論	34
分子細胞生物学特論	36
分子病態学特論	38
生体機能医学特論Ⅰ（分子生理学）	40
生体機能医学特論Ⅱ（分子病理学）	42
生体機能医学特論Ⅲ（神経解剖学）	44
生体機能医学特論Ⅳ（分子薬理学）	46
生体機能医学特論Ⅴ（感染症学）	48
生体機能医学特論Ⅵ（分子免疫学）	50
公衆衛生学特論	52
生体病態医学特論Ⅰ（リウマチ膠原病・神経内科学）	54
生体病態医学特論Ⅱ（法医学）	58
生体病態医学特論Ⅲ（循環器病学）	60
生体病態医学特論Ⅳ（呼吸器・甲状腺学）	62
医療安全管理学特論	64
医学教育学特論	66
人体構造学特論	68

医学特論 I (総論)

【責任者：〔薬理学〕松岡 正明 主任教授】

授業科目担当教員

〔生化学〕宮澤 啓介 主任教授

〔微生物学〕松本 哲哉 主任教授

〔分子病理学〕黒田 雅彦 主任教授

〔細胞生理学〕小西 真人 主任教授

〔医学総合研究所〕善本 隆之 教授

種 別：必修科目

学 期：1 年前期

単位数：1 単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

歴史を踏まえつつ医科学の最先端の現状について理解し、医科学研究の今後の進むべき姿について自らの考えを述べることができる。医科学研究の基礎概念を説明できる。

(2) 授業の概要

幾つかの注目分野に焦点を絞って、医科学研究の実際を紹介する。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習・復習等

関連する項目を事前に学習する。

(2) 他の授業科目との関連性

特に無し

(3) その他

3. 成績評価基準

配分は以下の通りとし、合計点60点以上を合格とする。

(評価区分 A 100～80点 B 79点～70点 C 69～60点 D 59点以下)

1. 出席状況 (40%)

2. 受講態度 (15%)

3. 口頭質問 (5%)

4. レポート (40%)

4. 教科書・参考書など

無し

5. オフィスアワー

講義当日あるいは次回終日受け付けます。

5. 授業内容・日程

回	月 日	時 限	内 容	担当者
1	4月4日(月)	1	トランスレーショナルリサーチ研究の概念を理解させ、同研究の例を悪性腫瘍研究の分野での業績を紹介し今後の展望をしめす	宮澤 啓介
2	4月11日(月)	1	iPS細胞－再生医療の最先端としてiPS細胞研究を紹介し、その最先端研究の現状を通じて、医科学研究のあり方を理解させる	黒田 雅彦
3	4月18日(月)	1	動物実験による医学への貢献－動物実験の進歩と発展を概説し医科学研究における動物実験の意義を主に疾患の動物モデルを通じて示す	松岡 正明
4	4月25日(月)	1	免疫学の進歩－免疫学の進歩と免疫学的疾患治療法の進歩の解説	善本 隆之
5	5月9日(月)	1	新たな病原体の出現－近年新たに発生した、エイズ、SARS、インフルエンザなどについて病原体研究の医学における意義を理解させる	松本 哲哉
6	5月16日(月)	1	未定	
7	5月23日(月)	1	病理診断学の進歩－病理診断学の進歩を概観し、それが医学の発展にもたらした効果を病理研究の観点から理解させる	黒田 雅彦
8	5月30日(月)	1	細胞膜のチャンネル、トランスポーターが生体の恒常性維持に果たす役割とその破綻による病態について概説する	小西 真人

医学特論Ⅱ（生命倫理）

【責任者：生命倫理学（医学倫理学） 倉田 誠 講師】

授業科目担当教員

〔生命倫理学（医学倫理学）〕 黒須 三恵 兼任教授

〔分子病理学〕 黒田 雅彦 主任教授

種 別：必修科目

学 期：1年前期

単位数：1単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

医療・医科学に関連した基本的な倫理問題についてその現状を理解し、多様な考え方に配慮しながら、医科学や医療の発達によりもたらされる新たな課題に対応できる判断力を身につけるとともに、法令等を遵守する（コンプライアンス）態度も養う。

(2) 授業の概要

・医学や生命科学および医療における倫理上の問題を概説する。

医科学研究において遭遇する倫理問題は比較的少なく、主に臨床医学上の倫理問題が中心的なテーマとなる。しかしながら、先端的な医科学研究は、直接および間接的に臨床医学の問題と関連する場合が多いため、研究に携わる場合には基本的な概念形成が必須となる。

・討論を通じて思考能力を養う。

・資料は授業ごとに配布する。

・与えられたテーマについて予め、自分の考えを形成しておくことが必須である。

・授業のはじめに前回の復習を行う。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習・復習等

・事前に授業の予習を行い、課題となる事項について自分なりの考えをまとめておく。

・復習を行い、授業内容を整理し確認すること。

(2) 他の授業科目との関連性

・医学や生命科学における倫理上の問題を考えるためには、医学や生命科学上の知識を理解していなければ、誤った判断をすることが懸念される。そのため、医学特論や生体機能医学特論なども真剣に学ばなければならない。

(3) その他

・討論には積極的に参加すること。

3. 成績評価基準

配分は以下の通りとし、合計点60点以上を合格とする。

（評価区分 A 100～80点 B 79点～70点 C 69～60点 D 59点以下）

1. 出席状況（10%）

2. 受講態度 (10%)

3. レポート (80%)

4. 教科書・参考書など

・参考書：『新版 医療倫理Q&A』関東医学哲学・倫理学会編、太陽出版、2013年

5. 授業内容・日程

回	月 日	時 限	内 容	担当者
1	4月7日(木)	2	生命倫理学の成立とその背景	黒 須
2	4月14日(木)	2	生命倫理の原則と方法論 －倫理的推論とコンプライアンス－	黒 須
3	4月21日(木)	2	生命倫理と先端医学・医療 －遺伝子組換え・クローン・再生医学技術－	黒 田
4	4月28日(木)	2	生命倫理と医学研究 －動物実験・遺伝子解析など－	黒 須
5	5月12日(木)	2	終末期医療における倫理問題	黒 須
6	5月19日(木)	2	臓器移植および脳死における倫理問題	黒 須
7	5月26日(木)	2	全体総括 (総合討論)	倉 田 黒 須
8	6月2日(木)	2	全体総括 (総合討論)	倉 田 黒 須

医学特論Ⅲ（医学英語）

【責任者：〔医学教育学〕 R.ブルーヘルマンズ 准教授】

授業科目担当教員

〔微生物学〕 小林 了 准教授

〔薬理学〕 松岡 正明 主任教授

〔微生物学〕 松本 哲哉 主任教授

〔微生物学〕 大楠 清文 教授

種 別：必修科目

学 期：1年前期

単位数：1単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

医療・医科学に関連した医学英語の基本を習得する。また、今後さらなる医学英語の習得を行うノウハウを身につける。医学英語論文の読解の基本を習得する。

(2) 授業の概要

医学研究には英語の習得が必須であることを理解した上で、医学英語に関する基本を学ぶ。微生物学、分子生物学、感染症、生理学、薬理学の5分野を例に、医学英語論文の読解演習を行う。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習・復習等

- ・積極的に参加する態度が重要である。
- ・読解演習ではあらかじめ渡された例を予習しておくことが必須である。

(2) 他の授業科目との関連性

特になし

(3) その他

特になし

3. 成績評価基準

配分は以下の通りとし、合計点60点以上を合格とする。

（評価区分 A100～80点 B79点～70点 C69～60点 D59点以下）

1. 出席状況（20%）
2. 受講態度（20%）
3. レポート（60%）

4. 教科書・参考書など

資料は授業ごとに担当教員がハンドアウトを配布する。

5. 授業内容・日程

回	月 日	時 限	内 容	担当者
1	4月4日(月)	4	医学英語の必要性－入門、 医学英語の特徴	R.ブルーヘルマンズ
2	4月11日(月)	4	医学専門用語の修得（1） 基本医学用語	R.ブルーヘルマンズ
3	4月18日(月)	4	医学専門用語の修得（2） 基本医学的な言い回し	R.ブルーヘルマンズ
4	4月25日(月)	4	医学専門用語の修得（3） 基本医学的な言い回し	R.ブルーヘルマンズ
5	5月9日(月)	4	医学英語論文の読解演習（1） 微生物学分野	小林 了
6	5月16日(月)	4	医学英語論文の読解演習（2） 薬理学分野	松岡 正明
7	5月23日(月)	4	医学英語論文の読解演習（3） 感染症分野	松本 哲哉
8	5月30日(月)	4	医学英語論文の読解演習（4） 分子生物学分野	大楠 清文

医学特論Ⅳ（医科学一般）

【責任者：〔化学〕普神 敬悟 教授】

授業科目担当教員

〔生物学〕太田 一正 准教授

〔数学〕神田 茂雄 教授

種 別：必修科目

学 期：1年前期

単位数：1単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

医学研究遂行の基礎となる化学や生物学の概念，ならびに統計の基本を理解することを目標とする。

(2) 授業の概要

生体構成分子の分子構造とそれらの反応について化学の立場から考える。つぎに，生命システムのもつ普遍的な細胞の分子基盤とそこから生み出される多様性を階層的にとらえ、生物としてのヒトを考える。さらに，医学統計の考え方の基礎について学ぶ。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習・復習等

該当する授業内容について，4.に挙げた参考書などで予習し，授業に臨むこと。

(2) 他の授業科目との関連性

医学研究の基礎となる内容であるので，十分理解することが必要である。

(3) その他

授業中は，積極的に発言し，理解を深めること。

3. 成績評価基準

配分は以下の通りとし、合計点60点以上を合格とする。

(評価区分 A 100～80点 B 79点～70点 C 69～60点 D 59点以下)

1. 受講態度 (10%)

2. 口頭試問 (25%)

3. 筆記試験 (15%)

4. レポート (50%)

4. 教科書・参考書など

古川俊之 監修，丹後俊郎 著：『医学への統計学』，朝倉書店

5. 授業内容・日程

回	月 日	時 限	内 容	担当者
1	5月9日(月)	2	医学研究の基礎としての化学(1) 生体構成分子の構造	普神 敬悟
2	5月16日(月)	2	医学研究の基礎としての化学(2) 生体構成分子の反応	普神 敬悟
3	5月23日(月)	2	医学研究の基礎としての生物学(1) -生物の特性	太田 一正
4	5月30日(月)	2	医学研究の基礎としての生物学(2) -生物としてのヒト	太田 一正
5	6月6日(月)	2	医学データの整理	神田 茂雄
6	6月13日(月)	2	統計的推測の基礎	神田 茂雄
7	6月20日(月)	2	平均値に関する推測	神田 茂雄
8	6月27日(月)	2	相関係数と回帰直線に関する推測	神田 茂雄

基礎生命科学特論

【責任者：〔生物学〕太田 一正 准教授】

種 別：必修科目

学 期：1年前期

単位数：2単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

進化の見地に立って、細胞の誕生から多細胞化への道のりを理解し、普遍的原理としての遺伝情報とその変化の歴史からみえる多様性を理解する。また、生命医科学を学ぶための基礎となる生命現象の共通の原理や仕組みを習得するとともに、科学的方法により生命を理解する態度を身につける。

(2) 授業の概要

地球上に生物が誕生してきた歴史を、生命現象の普遍性と多様性の両面から考え、環境との相互作用によってヒトやその他の生物がどのように進化してきたのかを概説する。これらの中で必要に応じ、生命医科学を学ぶための基礎となる細胞と細胞小器官、生体構成分子、細胞の増殖、細胞の情報伝達などについても解説する。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習・復習等

授業内容に応じて必要な基本知識や疑問点を参考書を利用して確認しておく。

(2) 他の授業科目との関連性

生命現象の普遍性と多様性を通して全ての科目と関連する。

(3) その他

特になし

3. 成績評価基準

配分は以下の通りとし、合計点60点以上を合格とする。

(評価区分 A 100～80点 B 79点～70点 C 69～60点 D 59点以下)

1. 出席状況 (15%)

2. 受講態度 (15%)

3. 口頭試問 (20%)

4. レポート (50%)

4. 教科書・参考書など

参考書

- ・キャンベル生物学原書9版 小林興監訳 丸善出版
- ・進化 分子・個体・生態系 宮田隆・星山大介監訳 MEDSi
- ・ウォルパート発生生物学 武田洋幸・田村宏治監訳 MEDSi
- ・ヒトの分子遺伝学第4版 村松正實・木南凌監修 MEDSi
- ・ワトソン遺伝子の分子生物学第6版 中村桂子監訳 東京電機大学出版局

5. 授業内容・日程

回	月 日	時 限	内 容	担当者
1	4月4日(月)	2	生命科学と生物学	太 田
2	4月11日(月)	2	健康診断 (場所：大学記念会館 1F)	
3	4月18日(月)	2	個体群の相互作用	太 田
4	4月25日(月)	2	群集の相互作用	太 田
5	5月11日(水)	1	エネルギー流と化学的循環	太 田
6	5月18日(水)	1	生物多様性と保全・復元生物学	太 田
7	5月25日(水)	1	進化とダーウィン	太 田
8	6月1日(水)	1	進化のメカニズム	太 田
9	6月8日(水)	1	生物多様性の進化	太 田
10	6月15日(水)	1	生物の分類と系統	太 田
11	6月22日(水)	1	ゲノムの進化	太 田
12	6月29日(水)	1	系統分類学と分子進化	太 田
13	7月4日(月)	2	生命の起源と動物の進化	太 田
14	7月11日(月)	2	四足動物の進化	太 田
15	7月20日(水)	1	ヒトの進化	太 田

分子細胞生物学特論

【責任者：〔生化学〕宮澤 啓介 主任教授】

授業科目担当教員

〔生化学〕宮澤 啓介 主任教授

〔生化学〕平本 正樹 准教授

〔生化学〕阿部 晃久 講師

〔生化学〕高野 直治 講師

〔生化学〕森谷 昇太 助教

種 別：必修科目

学 期：1年前期

単位数：2単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

生化学・分子生物学は生命現象を分子レベルで探求していく学問領域であり、医学における様々な病態を理解する上で必要不可欠な基礎科目の一つである。生体は合成（同化）と分解（異化）の動的バランスにより維持されているが、個体を構成する個々の細胞レベルに視点を移せば、①増殖（DNA複製）、②分化（遺伝子発現）、③細胞死、あるいは④静止期（G0期）の維持という4つの現象の何れかが営まれており、これらは巧みな制御機構のもとにある。また、このような細胞現象の制御破綻が悪性腫瘍を含めた様々な疾患を誘発する。

本特論では、生化学・分子生物学の学習を通して、生命現象を分子レベルで探求していくための“目”と“手”と“頭”を養うことを到達目標としている。

(2) 授業の概要

まず、細胞の主要な構成要素（タンパク質、糖質、脂質、核酸）についての生化学的性質と細胞内での代謝機構を理解する。次に、分子生物学の視点から細胞増殖・分化に関わる制御機構について、最新の知見を含めて学ぶ。さらに、恒常性維持のための細胞内構成成分の除去機構（オートファジー、ユビキチン・プロテアソーム）、個々の細胞排除機構（アポトーシス、ネクロトーシス）へと展開する。また、この過程において、諸疾患の病態生理を理解する関連事項および、研究活動を行う上での基礎的研究技能に関する項目も適宜解説する。

2. 授業に際し学生の留意点

少人数による双方向授業を展開する。授業中のディスカッションには積極的に参加すること。

3. 成績評価基準

配分は以下の通りとし、合計点60点以上を合格とする。

（評価区分 A100～80点 B79点～70点 C69～60点 D59点以下）

1. 出席状況（10%）
2. 受講態度（20%）
3. 筆記試験もしくは口頭試問（40%）
4. レポート（30%）

4. 教科書・参考書など

「分子生物学概論」(東京医科大学生化学分野編)を配布する。その他資料は各授業に担当教員が配布する。

参考書として

- ・リップンコット・イラストレイテッド生化学 (丸善出版)
- ・ハーパー生化学 (丸善出版)
- ・Essential 細胞生物学 (南江堂)

5. 授業内容・日程

回	月 日	時 限	内 容	担当者
1	4月6日(水)	3	生化学1 タンパク質・アミノ酸代謝	平 本
2	4月13日(水)	3	生化学2 酵素学	阿 部
3	4月20日(水)	3	生化学3 糖代謝	平 本
4	4月27日(水)	3	生化学4 脂質代謝	阿 部
5	5月11日(水)	3	生化学5 核酸代謝	平 本
6	5月18日(水)	3	生化学6 ビタミン	平 本
7	5月25日(水)	3	分子生物学1 セントラルドグマ・機能性RNA	高 野
8	6月1日(水)	3	分子生物学2 エピジェネティクス・幹細胞	高 野
9	6月8日(水)	3	分子生物学3 遺伝子多型・遺伝子組換え	森 谷
10	6月15日(水)	3	分子生物学4 細胞周期・プログラム細胞死	森 谷
11	6月22日(水)	3	分子生物学5 シグナル伝達・ケミカルバイオロジー	平 本
12	6月29日(水)	3	分子生物学6 細胞内タンパク質分解機構	宮 澤
13	7月6日(水)	3	特別講義 エネルギー代謝制御 (清水)	平 本

*オリエンテーションは4月4日(月)医学持論Iで同時に行う。

分子病態学特論

【責任者：〔医学総合研究所〕大屋敷純子 教授】

授業科目担当教員

〔医学総合研究所〕善本 隆之 教授

〔医学総合研究所〕中島 利博 教授

〔医学総合研究所〕稲津 正人 准教授

種 別：必修科目

学 期：1年前期

単位数：2単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

生命医学の基礎である遺伝学の正確な知識に基づき、疾患の成因を遺伝子やタンパク質などの分子レベルの異常としてとらえ、その最新診断法および治療法を理解することを目標とする。

(2) 授業の概要

臨床遺伝学の基礎と応用について、メンデル遺伝病、多因子遺伝病、および遺伝子診断と遺伝子・細胞治療について概説する。また、悪性腫瘍、免疫不全症、感染症、自己免疫疾患。炎症性疾患、関節リウマチ、脂質代謝異常、糖尿病などの疾患について、その分子基盤および分子標的療法の歴史などを概説する。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習・復習等

各授業の担当教員の指示があった場合を除いて、原則として予習は不要である。

(2) 他の授業科目との関連性

基礎医学と臨床医学の橋渡し研究に必要な知識であり、分野横断的な領域の講義である。

(3) その他

3. 成績評価基準

配分は以下の通りとし、合計点60点以上を合格とする。

(評価区分 A100～80点 B79点～70点 C69～60点 D59点以下)

1. 出席状況 (10%)

2. 受講態度 (10%)

3. 筆記試験もしくは口頭試問 (40%)

4. レポート (40%)

4. 教科書・参考書など

各授業の担当教員がハンドアウトを配布する。

5. 授業内容・日程

回	月 日	時 限	内 容	担当者
1	4月7日(木)	3	遺伝子病の分子基盤	大屋敷
2	4月14日(木)	3	遺伝子と疾患：メンデル遺伝	大屋敷
3	4月21日(木)	3	遺伝子と疾患：多因子遺伝	大屋敷
4	4月28日(木)	3	遺伝子診断と遺伝子・細胞治療	大屋敷
5	5月12日(木)	3	関節リウマチを例とした炎症性疾患の分子病態 1	中 島
6	5月19日(木)	3	感染症とその分子機序	善 本
7	5月26日(木)	3	腫瘍に対する生体防御機構	善 本
8	6月2日(木)	3	がん分子病態の最新研究	大屋敷
9	6月9日(木)	3	アレルギー性疾患とその分子機序	善 本
10	6月16日(木)	3	関節リウマチを例とした炎症性疾患の分子病態 2	中 島
11	6月23日(木)	3	自己免疫性疾患とその分子機序	善 本
12	6月30日(木)	5	脂質代謝異常の分子病態	稲 津
13	7月7日(木)	3	免疫不全症候群とその分子機序	善 本
14	7月14日(木)	3	分子標的治療開発の歴史	中 島
15	7月21日(木)	5	糖尿病の分子病態と薬剤	稲 津

生体機能医学特論 I (分子生理学)

【責任者：〔病態生理学〕 林 由起子 主任教授】

授業科目担当教員

〔病態生理学〕 佐々木光美 准教授

〔病態生理学〕 川原 玄理 講師

種 別：必修科目

学 期：1年前期

単位数：2 単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の到達目標

神経・筋の機能を理解し、疾患の病因・病態機序を理解する。また、参加型授業を通してプレゼンテーションスキルを向上させる。

(2) 授業の概要

神経・筋を中心に、生体内のさまざまな細胞の特性および生理機能と構造を、授業内容の項目に沿って、指定した教科書を利用しながら理解する。さらに、関連する文献を自ら検索し内容を理解した上で、各自がプレゼンテーションを行い、積極的に議論する。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習・復習等

あらかじめ指定された教科書の項目および関連文献を予習しておく。

(2) 他の授業科目との関連性

分子生理学の授業内容は他の授業科目とも相互に補いあうものである。各自が授業で得た知識を有機的に統合し理解することが大切である。

(3) その他

3. 成績評価基準

配分は以下の通りとし、合計点60点以上を合格とする。

(評価区分 A 100～80点 B 79点～70点 C 69～60点 D 59点以下)

1. 出席状況 (10%)

2. 受講態度 (10%)

3. 口頭試問 (40%)

4. レポート (40%)

4. 教科書・参考書など

MOLECULAR CELL BIOLOGY (7th edition) W.H. Freeman and Company

MOLECULAR BIOLOGY OF THE CELL (6th edition) Garland Science

5. 授業内容・日程

回	月 日	時 限	内 容	担当者
1	4月4日(月)	3	神経細胞の機能	佐々木
2	4月11日(月)	3	活動電位の発生機構	佐々木
3	4月18日(月)	3	シナプス伝達	佐々木
4	4月25日(月)	3	神経系の構造	佐々木
5	5月9日(月)	3	fMRI	佐々木
6	5月16日(月)	3	筋肉の構造	林
7	5月23日(月)	3	ミトコンドリアと神経筋疾患	林
8	5月30日(月)	3	核膜の構造・機能と関連疾患	林
9	6月6日(月)	3	メンブレントラフィックと神経筋疾患	林
10	6月13日(月)	3	オートファジーと神経筋疾患	林
11	6月20日(月)	3	小胞体と神経筋疾患	川原
12	6月27日(月)	3	プロテアソームと神経筋疾患	川原
13	7月4日(月)	3	筋細胞膜構成タンパク質と関連疾患	川原
14	7月11日(月)	3	細胞外マトリックスの異常と関連疾患	川原
15	7月25日(月)	3	筋疾患のモデル動物	川原

生体機能医学特論Ⅱ（分子病理学）

【責任者：〔分子病理学〕黒田 雅彦 主任教授】

授業科目担当教員

〔分子病理学〕倉田 厚 准教授

〔分子病理学〕高梨 正勝 講師

〔分子病理学〕金蔵 孝介 講師

種 別：必修科目

学 期：1年前期

単位数：2単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- a. 臨床医学研究に必要な基本的病変および主要疾患の原因、発生機序について、形態学的立場から理解する。
- b. 疾患の研究に必要な病理学的方法論（病理解剖学、外科病理学、臨床細胞学、分子生物学など）を理解する。

(2) 授業の概要

分子診断のための細胞生物学、分子生物学的な手法を習得すると同時に、疾患の原因となる分子メカニズムを理解する。また、より精度の高い分子診断の手法や標的分子について研究する。

（黒田雅彦・高梨正勝・金蔵孝介/10回）分子病理学総論や分子病理学的解析法や分子診断法を担当する。また、最先端の病理学的研究について概説する。

（倉田 厚/5回）病理診断の技法や、発がんのメカニズムなど、腫瘍学における分子病理学研究について担当する。

2. 授業に際し学生への留意点

(1) 授業への準備・予習・復習等

大学院においては、予習は極めて大切である。特に、医学を含めた自然科学の知識は膨大である。事前に指定された教科書以外にも、常日頃から、Nature, Cell, Science 誌を読む習慣が欲しい。また、疑問点があれば、オフィスアワー等の時間を活用して積極的に教員に質問し、理解すること。

(2) 他の授業科目との関連性

生命現象の理解には、分子病理のみならず、生理学、薬理学、解剖学、免疫学を始めとした基礎医学の統合的な理解が必要である。常に他の科目で得られた知識を整理しながら、本科目も学習して欲しい。

(3) その他

3. 成績評価基準

配分は以下の通りとし、合計点60点以上を合格とする。

（評価区分 A100～80点 B79点～70点 C69～60点 D59点以下）

1. 出席状況（10%）

2. 受講態度 (10%)
3. 筆記試験もしくは口頭試問 (40%)
4. レポート (40%)

4. 教科書・参考書など

Kumar V, Abbas AK, Fausto N, Aster J: Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease. 7th Edition, Saunders, 2009

5. 授業内容・日程

回	月 日	時 限	内 容	担当者
1	4月6日(水)	2	分子病理学概論	黒 田
2	4月13日(水)	2	病理診断概論	倉 田
3	4月20日(水)	2	分子病理学的解析法 (I)	高 梨
4	4月27日(水)	2	分子病理学的解析法 (II)	高 梨
5	5月11日(水)	2	発がん機構	黒 田
6	5月18日(水)	2	がんと細胞周期	金 蔵
7	5月25日(水)	2	がんと染色体	金 蔵
8	6月1日(水)	2	がんとエピジェネティクス	金 蔵
9	6月8日(水)	2	実験動物の取り扱いと動物倫理	高 梨
10	6月15日(水)	2	動物モデル	高 梨
11	6月22日(水)	2	再生医療の展望	倉 田
12	6月29日(水)	2	分子診断	倉 田
13	7月6日(水)	2	研究の着想法	倉 田
14	7月13日(水)	2	プレゼンテーションの技法	倉 田
15	7月20日(水)	2	分子標的治療	黒 田

生体機能医学特論Ⅲ（神経解剖学）

【責任者：〔組織・神経解剖学〕石 龍徳 主任教授】

授業科目担当教員

〔組織・神経解剖学〕大山 恭司 准教授

〔組織・神経解剖学〕北澤 宏理 講師

種 別：必修科目

学 期：1年後期

単位数：2単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ・神経系の構造と機能をシステムとして理解する。
- ・神経系の発生過程とその分子メカニズムを理解する。

(2) 授業の概要

神経系は人体の構造の中で最も複雑であり、我々の生活の全て（感覚、運動、高度な精神活動）に重要な働きをしている。この授業では神経系の各部位の構造を組織・細胞レベルで説明するとともに、全体をシステムとして捉える。

また、この複雑な神経系が構築される発生過程とその発生を引き起こす分子メカニズムを説明する。授業では、基本事項から最近のトピックまでを扱う。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習・復習等

特別な準備・予習はいらない。授業で疑問に思ったことは、授業中に質問すること。さらに参考書などで調べること。

(2) 他の授業科目との関連性

分子生理学や分子細胞生物学の基礎知識が必要である。

(3) その他

3. 成績評価基準

配分は以下の通りとし、合計点60点以上を合格とする。

（評価区分 A100～80点 B79点～70点 C69～60点 D59点以下）

1. 出席状況（10%）
2. 受講態度（10%）
3. レポート（80%）

4. 教科書・参考書など

講義の時にプリントなどを配布する。参考書としては以下が便利である。

ベアー・コノーズ・パラディーソ「神経科学・脳の探求」（西村書店）

Wolpert発生生物学（メディカル・サイエンス・インターナショナル）

Sanes et al. eds, “Development of the nervous system”, 3rd edition (Elsevier)

5. 授業内容・日程

回	月 日	時 限	内 容	担当者
1	9月1日(木)	2	人脳の構造と機能(1)	石
2	9月8日(木)	2	人脳の観察(1)	石
3	9月15日(木)	2	人脳の構造と機能(2)	石
4	9月29日(木)	2	人脳の観察(2)	石
5	10月6日(木)	2	神経組織の成り立ち	石
6	10月13日(木)	2	神経組織の顕微鏡観察	石
7	10月20日(木)	2	脳形態形成と修復(1)	大 山
8	10月27日(木)	2	脳形態形成と修復(2)	大 山
9	11月10日(木)	2	脳の老化・癌化	大 山
10	11月17日(木)	2	神経系の興奮伝導に関与するイオンチャンネルとシナプス伝達(末梢神経系)	北 澤
11	11月24日(木)	2	シナプス伝達(中枢神経系)とシナプス可塑性	北 澤
12	12月1日(木)	2	大脳の進化	石
13	12月8日(木)	2	海馬と記憶	石
14	12月15日(木)	2	成体脳のニューロン新生	石
15	12月22日(木)	2	神経幹細胞	石

生体機能医学特論Ⅳ（分子薬理学）

【責任者：〔薬理学〕松岡 正明 主任教授】

授業科目担当教員

〔医学総合研究所〕稲津 正人 准教授

〔薬理学〕橋本 祐一 講師

種 別：必修科目

学 期：1年前期

単位数：2単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

生命医学の正確な知識に基づき「科学的な視点から」薬物療法の基礎と本質を学ぶ。

(2) 授業の概要

- 1) 現代薬理学を理解するに必須の生命科学基本原理を系統的に理解する。
- 2) 薬理学総論・特に薬物動態について理解する。
- 3) 代表的な疾患のメカニズムを知り、それら疾患に対する最先端薬物療法の詳細を理解する。
- 4) アルツハイマー病/筋萎縮性側索硬化症の最先端治療法を理解する。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習・復習等

関連する基本概念を授業前に学習する。

(2) 他の授業科目との関連性

生命科学の基礎を十分理解することが薬理学を理解する上での必須事項である。

(3) その他

3. 成績評価基準

配分は以下の通りとし、合計点60点以上を合格とする。

(評価区分 A 100～80点 B 79点～70点 C 69～60点 D 59点以下)

1. 出席状況 (40%)
2. 受講態度 (15%)
3. 口頭試問 (5%)
4. レポート (40%)

4. 教科書・参考書など

参考書：田中千賀子、加藤隆一編：NEW薬理学（南江堂）／遠藤政夫編：医科薬理学（南山堂）

5. オフィスアワー

講義当日あるいは次日終日受け付けます。

6. 授業内容・日程

回	月 日	時 限	内 容	担当者
1	4月7日(木)	1	薬理学総論 I	松岡 正明
2	4月14日(木)	1	細胞情報伝達経路 I	松岡 正明
3	4月21日(木)	1	細胞情報伝達経路 II	松岡 正明
4	4月28日(木)	1	細胞死	橋本 祐一
5	5月12日(木)	1	イオンチャンネル	松岡 正明
6	5月19日(木)	1	細胞周期	松岡 正明
7	5月26日(木)	1	自律神経系	松岡 正明
8	6月2日(木)	1	自律神経系薬剤	松岡 正明
9	6月9日(木)	1	薬理学総論 薬物体内動態	松岡 正明
10	6月16日(木)	1	中枢神経系薬剤	橋本 祐一
11	6月23日(木)	1	鎮痛薬	松岡 正明
12	6月30日(木)	1	抗悪性腫瘍薬 I	松岡 正明
13	7月7日(木)	1	抗悪性腫瘍薬 II	松岡 正明
14	7月14日(木)	1	抗ウイルス薬	松岡 正明
15	7月21日(木)	1	アルツハイマー病治療薬研究	松岡 正明

生体機能医学特論 V (感染症学)

【責任者：〔微生物学〕松本 哲哉 主任教授】

授業科目担当教員

〔微生物学〕大楠 清文 教授

〔微生物学〕小林 了 准教授

〔微生物学〕宮崎 治子 講師

〔微生物学〕カンダカル・ハーク 助教

種 別：必修科目

学 期：1 年前期

単位数：2 単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

基礎と臨床の両面から感染症をとらえ、微生物の特徴とそれによって引き起こされる感染症の病態について考えを深めることができるようにする。

(2) 授業の概要

各種微生物の特徴および各種疾患の診断、治療の概略を学ぶ。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習・復習等

格段の事前の準備は不要であるが、興味ある感染症の領域があれば、それに関する書籍を読んできて欲しい。

(2) 他の授業科目との関連性

感染の病態という面で免疫学との関連が大きい。

(3) その他

特になし。

3. 成績評価基準

配分は以下の通りとし、合計点60点以上を合格とする。

(評価区分 A 100～80点 B 79点～70点 C 69～60点 D 59点以下)

1. 出席状況 (10%)

2. 受講態度 (10%)

3. 筆記試験もしくは口頭試問 (40%)

4. レポート (40%)

4. 教科書・参考書など

指定の教科書はなし。

5. 授業内容・日程

回	月 日	時 限	内 容	担当者
1	4月5日(火)	1	感染症の歴史	松 本
2	4月12日(火)	1	微生物の特徴	大 楠
3	4月19日(火)	1	感染症の病態	松 本
4	4月26日(火)	1	ウイルス感染症（1）	小 林
5	5月10日(火)	1	細菌感染症	大 楠
6	5月17日(火)	1	ウイルス感染症（2）	小 林
7	5月24日(火)	1	特殊な病原体による感染症	大 楠
8	5月31日(火)	1	感染症の診断法	大 楠
9	6月7日(火)	1	ウイルス感染症（3）	小 林
10	6月14日(火)	1	ウイルス感染症（4）	小 林
11	6月21日(火)	1	耐性菌	ハーク
12	6月28日(火)	1	真菌感染症	宮 崎
13	7月5日(火)	1	ワクチン	宮 崎
14	7月12日(火)	1	感染症の治療	松 本
15	7月19日(火)	1	院内感染	松 本

生体機能医学特論Ⅵ（分子免疫学）

【責任者：〔免疫学〕横須賀 忠 主任教授】

授業科目担当教員

〔免疫学〕矢那瀬紀子 講師

〔免疫学〕秦 喜久美 講師

〔免疫学〕高田 栄子 兼任講師

種 別：必修科目

学 期：1年前期

単位数：2単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

生命科学の知識に基づいて免疫システムを理解すると共に免疫関連疾患の病態や治療・予防法を学ぶ。

(2) 授業の概要

免疫担当細胞であるリンパ球の成熟・分化の仕組みを理解すると共にリンパ球の活性化をもたらす細胞内シグナル伝達経路を学ぶ。自然免疫と適応免疫からなる免疫システム及び自己寛容の成立機序を学び、感染免疫、自己免疫、腫瘍免疫、アレルギーの基本的な成り立ちを学ぶ。さらに気管支喘息の臨床、治療薬および動物モデルを用いた気管支喘息の病態について学ぶ。資料は授業ごとに担当教員がスライドPDFをアップロードする。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習・復習等

教科書や参考書を用いて講義内容を予習しておくこと。

(2) 他の授業科目との関連性

免疫系の全体像を把握しておくことと病態生理を理解しやすい。

(3) その他

- ・ 单元ごとのつながりを理解する。
- ・ 疑問点については解決しておく。

3. 成績評価基準

配分は以下の通りとし、合計点60点以上を合格とする。

(評価区分 A 100～80点 B 79点～70点 C 69～60点 D 59点以下)

1. 出席状況 (40%)

2. 受講態度 (10%)

3. レポート (50%)

4. 教科書・参考書など

教科書：Abul K. Abbas, Andrew H. Lichtman, Shiv Pinai “Basic Immunology” Elsevier Saunders 4th edition

参考書：河本 宏著 “もっとよくわかる免疫学” 実験医学別冊 羊土社

5. 授業内容・日程

回	月 日	時 限	内 容	担当者
1	4月7日(木)	4	免疫学概論とコンプライアンス	横須賀 忠
2	4月14日(木)	4	自然免疫 1	横須賀 忠
3	4月21日(木)	4	自然免疫 2	横須賀 忠
4	4月28日(木)	4	自然免疫 3	秦 喜久美
5	5月12日(木)	4	抗原提示	矢那瀬紀子
6	5月19日(木)	4	抗原認識受容体 1	横須賀 忠
7	5月26日(木)	4	抗原認識受容体 2	横須賀 忠
8	6月2日(木)	4	T細胞機能 1	横須賀 忠
9	6月9日(木)	4	T細胞機能 2	横須賀 忠
10	6月16日(木)	4	B細胞機能 1	秦 喜久美
11	6月23日(木)	4	B細胞機能 2	秦 喜久美
12	6月30日(木)	4	免疫寛容と制御性T細胞	横須賀 忠
13	7月7日(木)	4	腫瘍免疫と移植免疫	矢那瀬紀子
14	7月14日(木)	4	アレルギー	高田 栄子
15	7月21日(木)	4	免疫不全	横須賀 忠

公衆衛生学特論

【責任者：〔公衆衛生学〕井上 茂 主任教授】

授業科目担当教員

〔公衆衛生学〕小田切優子 講師

〔公衆衛生学〕高宮 朋子 講師

〔公衆衛生学〕福島 教照 講師

〔公衆衛生学〕菊池 宏幸 講師

〔公衆衛生学〕安部由美子 兼任講師

種 別：必修科目

学 期：1年後期

単位数：2単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

社会的存在として、人の出生から死亡にいたるライフサイクルの中で、様々な事象を医学的側面と社会学的側面の両面から考究し、疾病予防と健康増進の考え方を理解する。また、我が国における公衆衛生全般の制度・政策について理解し、公衆衛生学における医学研究を実施するための基本的な知識及びスキルを体得する。

(2) 授業の概要

- ・人の健康に関与する要因と、その社会医学的対応の技術を学ぶ。
- ・地域保健、母子保健、学校保健、産業保健、環境保健等について理解する。
- ・保健、医療、福祉及び介護に関する制度についての基礎知識を習得する。
- ・研究の倫理とともに、疫学の指標及び研究デザイン、統計手法を理解する。
- ・コンピューターを用いて、統計ソフトによるデータ解析の基本を習得する。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

- ・授業に冒頭から出席しないと理解が進まず、さらに次の授業にも影響する。したがって、遅刻は厳禁とする。(特にコンピューターを用いた統計解析の授業)
- ・事前に参考教科書における授業関連部分を読んでおくことを推奨するが、公衆衛生学の範囲は極めて広く教科書だけによる学習は不十分のことがあるため、講義を疎かにし教科書だけによる学習は極めて困難である。
- ・講義資料は教科書だけではカバーしきれない分野もあるため、基本的に授業ごとに担当教員がハンドアウトを配布する。

(2) 他の授業科目との関連性

(3) その他

3. 成績評価基準

配分は以下の通りとし、合計点60点以上を合格とする。

(評価区分 A 100～80点 B 79点～70点 C 69～60点 D 59点以下)

1. 出席状況 (50%)

2. 受講態度 (50%)

4. 教科書・参考書など

SPSSで学ぶ医療系データ解析 (東京図書) を教科書、NEW予防医学・公衆衛生学 (南江堂) を参考教科書とする。

5. 授業内容・日程

回	月 日	時 限	内 容	担当者
1	9月1日(木)	3	公衆衛生概論1(予防医学健康増進・生活習慣病対策、地域保健活動と保健医療行政)	高 宮
2	9月8日(木)	3	公衆衛生概論2(国民の健康水準、母子保健・学校保健)	安 部
3	9月15日(木)	3	公衆衛生概論3(高齢者医療と福祉・介護、食品保健・感染症)	高 宮
4	9月29日(木)	3	公衆衛生概論4(産業保健、精神保健福祉、生活環境保健)	高 宮
5	10月6日(木)	3	疫学1:疫学概論	井 上
6	10月13日(木)	1	疫学2:疫学指標	井 上
7	10月20日(木)	1	統計解析1:統計の基礎	高 宮
8	10月20日(木)	3	疫学3:疫学研究法	井 上
9	11月10日(木)	3	疫学4:研究実施・論文作成ルール	井 上
10	11月17日(木)	3	統計解析2:調査票作成・データ入力の基礎	福 島
11	11月24日(木)	3	統計解析3:データの種類	福 島
12	12月1日(木)	3	統計解析4:連続変数の比較(2群の比較)	福 島
13	12月8日(木)	3	統計解析5:連続変数の比較(3群以上の比較)	福 島
14	12月15日(木)	3	統計解析6:カテゴリーデータの比較	福 島
15	12月22日(木)	3	統計解析7:総復習	福 島

9月22日、11月3日は祭日のためなし

生体病態医学特論Ⅰ（リウマチ膠原病・神経内科学）

【責任者：〔リウマチ・膠原病内科〕 沢田 哲治 教授】

授業科目担当教員

〔神経内科〕 赫 寛雄 准教授

種 別：選択科目

学 期：1年後期

単位数：1単位

<リウマチ膠原病学>

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

近年の免疫学やゲノム医学などの進歩により、リウマチ性疾患の病因・病態の解明は著しく、また、その治療法も生物学的製剤や分子標的薬の登場により飛躍的に進歩している。本講義の目標はリウマチ性疾患の概念や病態、診断、治療について医学修士として十分な学識を得ることである。

(2) 授業の概要

リウマチ性疾患、膠原病では、非特異的な全身症状とともに特徴的な症状が多臓器にわたって認められることが多い。講義ではリウマチ性疾患の臨床診断プロセス（免疫血清学的検査の意義を含む）を解説する。さらに、リウマチ性疾患の病因や病態形成、治療薬の作用機序について考察する。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習・復習等

基礎免疫学および臨床薬理学（ステロイドを含む免疫抑制薬、抗体医薬）に関する知識を有していることが望ましい。

(2) 他の授業科目との関連性

リウマチ性疾患は多彩な臨床症状を呈する。その中から病態の本態を理解し、患者のADLや生命予後を決定づける臓器病変の出現と重症度を把握し、適切な治療計画を立案するには、リウマチ性疾患自体に通じていることは勿論、医学全般にわたる広い知識が必要である。

(3) その他

講義の復習を行うとともに継続して受講しないと全体像の把握が難しくなる。

3. 成績評価基準

配分は以下の通りとし、合計点60点以上を合格とする。

（評価区分 A100～80点 B79点～70点 C69～60点 D59点以下）

1. 出席状況（20%）

2. 受講態度（20%）

3. 筆記試験もしくは口頭試問（60%）

4. 教科書・参考書など

1. Kelley's Textbook of Rheumatology Firestein GS 編 (Elsevier)
2. Arthritis and Allied Conditions Koopman WJ編 (Lippincott Williams & Wilkins)
3. リウマチ病診療ビジュアルテキスト (医学書院)

<神経内科学>

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

神経内科学には、脳血管障害、変性疾患、筋疾患、末梢神経疾患、神経免疫疾患、神経感染症等の多彩な領域が含まれる。まず、個々の臨床神経症候を機能解剖と関連付けて理解し、特徴ある診断プロセス（局所診断、病因診断）について学ぶ。同時に神経放射線学的、また分子生物学的手法を用いた最新の検査法について理解をする。そして現行の治療法と、今後期待されている新たな治療法について学ぶ。

(2) 授業の概要

初めに総論として神経機能解剖、臨床神経症候、神経放射線学的・生理学的検査法について解説を行い、系統的な診断プロセス（局所診断、病因診断）について理解する。各論では主要疾患（変性疾患、脳血管障害、神経免疫疾患）を取り上げて、疾患概念、病因、病態、治療について事例を提示して解説を行う。また各疾患の病態解明に向けた最先端のトピックスについて触れる。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習・復習等

臨床神経学は、神経解剖学、神経生理等の基礎的神経科学の理解から始まる。
神経系の基礎的知識の復習を充分された上で出席されたい。

(2) 他の授業科目との関連性

臨床神経学は、他の内科系領域のみならず、外科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、泌尿器科学等多くの領域と密接な関係を持つ学問である。

(3) その他

特になし

3. 成績評価基準

配分は以下の通りとし、合計点60点以上を合格とする。

(評価区分 A100～80点 B79点～70点 C69～60点 D59点以下)

1. 出席状況 (20%)
2. 受講態度 (20%)
3. 筆記試験もしくは口頭試問 (60%)

4. 教科書・参考書など

1. 「ベッドサイドの神経の診かた (改定17版)」、田崎義昭、斎藤佳雄 著、南山堂、2010
2. 「標準神経病学 (第2版)」水野美邦 編、医学書院、2012
3. 「神経内科ハンドブック (第4版)」、水野美邦 編、医学書院、2010

5. 授業内容・日程

回	月 日	時 限	内 容	担当者
1	9月1日(木)	5	自己免疫疾患の概念	沢 田
2	9月8日(木)	5	膠原病の臨床症状	沢 田
3	9月15日(木)	5	膠原病の臨床検査（自己抗体を含む）	沢 田
4	9月29日(木)	5	自己免疫疾患とその治療	沢 田
5	10月5日(水)	5	神経学総論	赫
6	10月12日(水)	5	脳血管障害	赫
7	10月19日(水)	5	神経変性疾患	赫
8	10月26日(水)	5	神経免疫疾患	赫

生体病態医学特論Ⅱ（法医学）

【責任者：〔法医学〕吉田 謙一 主任教授（東大名誉教授）】

種 別：選択科目

学 期：1年後期

単位数：1単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の到達目標

法医学は、解剖・検査を通して異状死の死因を究明する。社会と医療の間において、真相究明を通じて人権を守る役割を果たしている。事故の後、病気になった場合、もともとあった病気が悪化したか、事故による損傷が重要か、治療に問題があるのではないか、等々について、診療経過や解剖を通じて解明しなければならない。その結果によって、交通事故賠償、医療紛争（裁判）となることがある。いっぽう、事故、喧嘩、過労、医療等によるストレスがきっかけになって、急死する人がいる。虚血性心疾患（心筋梗塞など）等が多いが、解剖・検査による診断は難しく、ストレスの評価も難しい。吉田は、「死に方がわからない」突然死・医療事故の事例に関する多くの英文ケースレポートを書き、その分析を通じて、実務上の研究課題を見つけてきた。その課題を研究するために、動物モデルを用いた実験的研究で成果を挙げてきた（英文論文約110、引用約3400）。見て気づくこと、分析しつつ考えること、それに基づいて課題と実験系・条件を考え、または、事例を集めて研究する事例を挙げて、研究の進め方、面白さ、難しさを伝えたい。

(2) 授業の概要

自分が死因究明に携わった事例、有名な裁判等の事例を、プレゼンしながら説明する。そして、問題点を一緒に考えながら、理解を深めてもらう。具体的には、個々の病気、損傷を示す事例の医学的な理解から、その社会的背景、よく陥る医療上の見逃し等のトラブルを具体的に紹介し、どのように解決すればよいのか一緒に考える。個々の事例を通じて、解剖学的・生理学的な知識をまとめ、社会や生活の中に位置づけることができる。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習・復習等

授業中は、集中して聞き、質問に答え、発言して欲しい。予習は不要であるが、下記の教科書を読んで復習してもらいたい。

(2) 他の授業科目との関連性

特に循環器に関する解剖学、生理学、公衆衛生、医事法、救急医学、循環器病学、脳外科等との関連が深い。医療事故や医療安全との関わりも多い。

(3) その他

特にない。

3. 成績評価基準

配分は以下の通りとし、合計点60点以上を合格とする。

（評価区分 A100～80点 B79点～70点 C69～60点 D59点以下）

1. 出席状況（10%）

2. 受講態度 (10%)

3. 口頭試問 (40%)

4. レポート (40%)

4. 教科書・参考書など

吉田謙一著「事例に学ぶ法医学・医事法」(有斐閣)

5. 授業内容・日程

回	月 日	時 限	内 容	担当者
1	10月4日(火)	4	死因究明制度 (犯罪見逃し、死因過誤はどうして?)	吉田 謙一
2	10月11日(火)	4	ストレスと突然死 (喧嘩で病死するわけ)	吉田 謙一
3	10月18日(火)	4	虚血性心疾患、心臓突然死の謎を追って	吉田 謙一
4	10月25日(火)	4	頭部外傷と脳出血 (画像で死因がわかるか?)	吉田 謙一
5	11月8日(火)	4	ショックとは? (さまざまな病態・損傷の担い手)	吉田 謙一
6	11月15日(火)	4	薬毒物中毒 (アルコール、一酸化炭素から覚醒剤、危険ドラッグまで)	吉田 謙一
7	11月29日(火)	4	窒息 (どうしてお風呂で溺れるか?)	吉田 謙一
8	12月6日(火)	4	虚血性心疾患・突然死の謎を追って (私の実験的研究)	吉田 謙一

生体病態医学特論Ⅲ（循環器病学）

【責任者：〔循環器内科学〕山科 章 主任教授】

授業科目担当教員

〔循環器内科学〕	近森大志郎	教授
〔循環器内科学〕	富山 博史	教授
〔循環器内科学〕	高田 佳史	准教授
〔循環器内科学〕	里見 和浩	准教授
〔循環器内科学〕	五関 善成	講師
〔循環器内科学〕	肥田 敏	講師
〔循環器内科学〕	椎名 一紀	講師
〔循環器内科学〕	武井 康悦	講師
〔循環器内科学〕	渡辺 雅貴	講師
〔健康増進スポーツ医学〕	勝村 俊仁	前主任教授

種 別：選択科目

学 期：1年後期

単位数：2単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

GIO

・生命医学の正確な知識に基づき「科学的な視点から」循環器病学の基礎と本質を学ぶ。

SBO

- ・循環器の基本構造、循環生理、各種病態を理解する。
- ・循環器疾患の疫学、病因について理解する。
- ・循環器疾患診断のための検査法を理解する。
- ・循環器疾患の臨床研究、EBMについて理解し、研究デザインができる。

(2) 授業の概要

講義、演習を通じて、循環器病の特徴を学び、コメディカルとしての課題を明確化し、自己学習、自主研究を促す。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習・復習等

推薦テキスト、当講座スタッフが作成したテキスト、総説を事前配布し、予習を行う。
授業後のポストテストにより復習を行う。

(2) 他の授業科目との関連性

心臓血管外科、健康増進スポーツ医学講座と関連して、目標を達成する。

(3) その他

3. 成績評価基準

配分は以下の通りとし、合計点60点以上を合格とする。

(評価区分 A 100～80点 B 79点～70点 C 69～60点 D 59点以下)

1. 出席状況 (30%)
2. 受講態度 (20%)
3. 筆記試験もしくは口頭試問 (20%)
4. レポート (30%)

4. 教科書・参考書など

各担当教員作成による講義テキスト

5. 授業内容・日程

回	月 日	時 限	内 容	担当者
1	9月6日(火)	5	運動生理学	勝 村
2	9月13日(火)	5	循環器の基本構造と機能	山 科
3	9月20日(火)	5	血管の機能とその検査法について	富 山
4	9月27日(火)	5	心電図と心臓電気生理学	里 見
5	10月4日(火)	5	虚血性心疾患の病態とその管理	山 科
6	10月11日(火)	5	不整脈の病態とその管理	五 関
7	10月18日(火)	5	高血圧の病態とその管理	椎 名
8	10月25日(火)	5	心筋症の病態とその管理	近 森
9	11月1日(火)	5	心不全の病態とその管理	渡 辺
10	11月8日(火)	5	循環器疾患と睡眠呼吸障害	高 田
11	11月15日(火)	5	循環器画像診法 (1) 心エコー、冠動脈造影	武 井
12	11月22日(火)	5	循環器画像診法 (2) 心臓核医学、心臓CT、心臓MRI	肥 田
13	11月29日(火)	5	循環器予防医学と循環器疫学	山 科
14	12月6日(火)	5	循環器臨床演習	山 科
15	12月13日(火)	5	循環器臨床研究のあり方	富 山

生体病態医学特論Ⅳ（呼吸器・甲状腺学）

【責任者：〔呼吸器・甲状腺外科学〕池田 徳彦 主任教授】

授業科目担当教員

〔呼吸器・甲状腺外科学〕筒井 英光 教授

〔呼吸器・甲状腺外科学〕大平 達夫 教授

〔呼吸器・甲状腺外科学〕梶原 直央 教授

〔呼吸器・甲状腺外科学〕垣花 昌俊 講師

種 別：選択科目

学 期：1年後期

単位数：2単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ・呼吸器、甲状腺の解剖・機能を理解する。
- ・呼吸器、甲状腺の疾患の病態を理解する。
- ・呼吸器、甲状腺における各種診断法を理解する。
- ・呼吸器、甲状腺における各種治療法を理解する。

(2) 授業の概要

- ・基礎的事項（解剖と機能など）
- ・診断方法、病期診断
- ・治療法
- ・注目すべき研究内容

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習・復習等

【授業準備・予習】講義や実習予定の内容の概略を事前に予習し理解しておくことが望ましい。講義の前にはあらかじめ推薦した教科書で該当する項目を学習しておき、余裕があるなら関連する内容の代表的な文献も検索しておく。講義の際には理解を深め、疑問点に関しては質疑ができるよう努めること。

【復習】反復して学習することは知識の定着に必要な作業である。講義で理解しにくかった項目は再度、教科書で確認したり、教官とコミュニケーションを取るなど、納得いくまで学習すること。他領域と密接に関連する内容もあるので、文献などを熟読することにより包括的な理解を心がけること。

(2) 他の授業科目との関連性

生体機能医学と関連を有する内容があるので、適時フィードバックすることが望ましい。

(3) その他

3. 成績評価基準

配分は以下の通りとし、合計点60点以上を合格とする。

（評価区分 A 100～80点 B 79点～70点 C 69～60点 D 59点以下）

1. 出席状況（10%）
2. 受講態度（10%）
3. 筆記試験もしくは口頭試問（50%）
4. レポート（30%）

4. 教科書・参考書など

標準外科学（医学書院）

呼吸器外科学（南山堂）

肺癌取り扱い規約（金原出版）

肺癌診療ガイドライン（金原出版）

Principles & Practice of Lung Cancer (Lippincott Williams & Wilkins)

5. 授業内容・日程

回	月 日	時 限	内 容	担当者
1	9月6日(火)	5	呼吸器・甲状腺の解剖と生理	大 平
2	9月13日(火)	5	呼吸器疾患総論	梶 原
3	9月20日(火)	5	呼吸器疾患の疫学と診断	梶 原
4	9月27日(火)	5	呼吸器疾患の治療総論	梶 原
5	10月4日(火)	5	肺癌の診断・病期分類	垣 花
6	10月11日(火)	5	肺癌の標準治療（病期Ⅰ/Ⅱ）	池 田
7	10月18日(火)	5	肺癌の標準治療（病期Ⅲ/Ⅳ）	大 平
8	10月25日(火)	5	肺癌の形態学（病理・細胞診）	垣 花
9	11月1日(火)	5	肺癌のトランスレーショナルリサーチ	大 平
10	11月8日(火)	5	呼吸器の良性疾患	大 平
11	11月15日(火)	5	縦隔腫瘍	池 田
12	11月22日(火)	5	甲状腺疾患総論	筒 井
13	11月29日(火)	5	甲状腺癌の診断と治療	筒 井
14	12月6日(火)	5	甲状腺の良性疾患・副甲状腺疾患	筒 井
15	12月13日(火)	5	肺癌の診断・治療の進歩	池 田

医療安全管理学特論

【責任者：〔医療安全管理学〕三木 保 主任教授】

授業科目担当教員

〔医療安全管理学〕浦松 雅史 講師

〔医療安全管理学〕和田 淳 兼任講師

種 別：選択科目

学 期：1年後期

単位数：2単位

1. 授業の目標・概要

(1) 授業の到達目標

*基本的な臨床能力の上に立脚したコミュニケーションを基礎とした医療安全管理について説明できる。

*インシデン事例に関してPDCAサイクルにて対応できる。

(2) 授業の概要

*医療安全・危機管理・リスク管理の総論各論について概説を受ける。

*実習として安全管理室にインシデン事例の分析、対策、立案を行う。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習・復習等

“To err is human”（米国医療の質委員会/医学研究所）通読

「ヒューマンエラーは裁けるか」シドニーデッカー（著）通読

(2) 他の授業科目との関連性

臨床各科における医療水準の確認、ノンテクニカルスキルの現況調査

(3) その他

院内事故調査委員会、M&M検討会傍聴

3. 成績評価基準

配分は以下の通りとし、合計点60点以上を合格とする。

（評価区分 A 100～80点 B 79点～70点 C 69～60点 D 59点以下）

1. 出席状況（10%）

2. 受講態度（10%）

3. 筆記試験もしくは口頭試問（50%）

4. レポート（30%）

4. 教科書・参考書など

前述

5. 授業内容・日程

回	月 日	時 限	内 容	担当者
1	9月5日(月)	2	医療安全・危機管理・リスク管理の総論各論	三木
2	9月12日(月)	2	医療安全・危機管理・リスク管理の総論各論	三木
3	9月26日(月)	2	医療安全・危機管理・リスク管理の総論各論	浦松
4	10月3日(月)	2	医療安全・危機管理・リスク管理の総論各論	浦松
5	10月17日(月)	2	実習（安全管理室にて事案の検討）	三木、浦松、 和田
6	10月24日(月)	2	実習（安全管理室にて事案の検討）	三木、浦松、 和田
7	10月31日(月)	2	実習（安全管理室にて事案の検討）	三木、浦松、 和田
8	11月7日(月)	2	実習（安全管理室にて事案の検討）	三木、浦松、 和田
9	11月14日(月)	2	実習（安全管理室にて事案の検討）	三木、浦松、 和田
10	11月21日(月)	2	実習（安全管理室にて事案の検討）	三木、浦松、 和田
11	11月28日(月)	2	実習（安全管理室にて事案の検討）	三木、浦松、 和田
12	12月5日(月)	2	レポート作成	三木、浦松、 和田
13	12月12日(月)	2	レポート作成	三木、浦松、 和田
14	12月19日(月)	2	レポート作成	三木、浦松、 和田
15	12月26日(月)	2	口頭試問	三木

医学教育学特論

【責任者：〔医学教育学〕泉 美貴 教授】

授業科目担当教員

〔医学教育学〕大滝 純司 兼任教授

〔医学教育学〕荒井 貞夫 特任教授

〔医学教育学〕三苫 博 兼任教授

〔医学教育学〕R. ブルーヘルマンズ 准教授

〔医学教育学〕山崎 由花 講師

種 別：選択科目

学 期：1年後期

単位数：2単位

1. 授業の到達目標・概要

(1) 授業の到達目標

医学に関する教員を目指す大学院生にとって、基本的な医学教育の理論とスキルを理解すること、医学教育の本邦と世界的な現状を知ることなどを通じ、指導者になった場合に必要となる基本的な医学教育知識と技術を習得する。

(2) 授業の概要

医学教育における基本的な学習理論、学習方法やスキルの教育法、ベッドサイド教育における学習法および評価法などの医学教育に基本的な理論や技法などを習得する。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習・復習等

教科書の相当するページを予め学習してから授業に臨むこと。

授業終了後のレポートは、教科書や参考文献の内容を取り入れて、記載すること。

(2) 他の授業科目との関連性

特になし

(3) その他

質問は常時受け付ける。ティーチング・アシスタントとしての活動の希望があれば受け付ける。

3. 成績評価基準

配分は以下の通りとし、合計点60点以上を合格とする。

(評価区分 A 100～80点 B 79点～70点 C 69～60点 D 59点以下)

1. 出席状況 (40%)

2. 受講態度 (20%)

3. レポート (40%)

4. 教科書・参考書など

・ John Dent, Ronald Harden. A Practical Guide for Medical Teachers Third Edition, Churchill Livingstone, London, 2009.

- ・ Tim Dornan, Karen Mann, et al. Medical Education Theory and Practice, Churchill Livingstone, London, 2011.
- ・ リチャード・クルーズ他編著, 日本医学教育学会倫理プロフェッショナルリズム委員会監訳, 医療プロフェッショナルリズム教育－理論と原則, 日本評論社, 2012.
- ・ 大西弘高. 新医学教育入門－教育者中心から学習者中心へ, 医学書院, 2005.
- ・ 岐阜大学医学教育開発研究センター監修, 日本の医学教育の挑戦, 篠原出版新社, 2012.
- ・ 日本医学教育学会編集, 医学教育白書2010年版, 篠原出版新社, 2010.

5. 授業内容・日程

回	月 日	時 限	内 容	担当者
1	9月2日(金)	5	医学教育の改革・学習理論	大 滝
2	9月9日(金)	5	シミュレーションによる教育	大 滝
3	9月16日(金)	5	e-ラーニング	ブルーヘルマンズ
4	9月23日(金)	5	教材の設計と開発	泉
5	9月30日(金)	5	医師国家試験にみる医学教育の評価	三 苦
6	10月7日(金)	5	ベッドサイド教育・外来教育・地域における教育	大 滝
7	10月14日(金)	5	外国語による質問紙調査票の翻訳と活用1)	ブルーヘルマンズ
8	10月21日(金)	5	外国語による質問紙調査票の翻訳と活用2)	ブルーヘルマンズ
9	10月28日(金)	5	コミュニケーションスキル教育・倫理と態度の教育	大 滝
10	11月4日(金)	5	医療情報・EBM教育	ブルーヘルマンズ
11	11月11日(金)	5	評価の原則・合否判定基準・筆記試験	泉
12	11月18日(金)	5	入学試験・パフォーマンスの評価・診療現場における評価	大 滝
13	11月25日(金)	5	キャリアパスの教育・医師の労働環境	泉
14	12月2日(金)	5	医学教育の中での社会調査	山 崎 泉
15	12月9日(金)	5	医学教育におけるIR (Institutional research) について	荒 井

人体構造学特論

【責任者：〔人体構造学〕伊藤 正裕 主任教授】

授業科目担当教員

〔人体構造学〕林 省吾 准教授

〔人体構造学〕平井 宗一 准教授

〔人体構造学〕曲 寧 講師

〔人体構造学〕宮宗 秀伸 講師

〔人体構造学〕李 忠連 講師

種 別：選択科目

学 期：1年後期

単位数：1単位

1. 授業の到達目標・概要

(1) 授業の到達目標

人体の形態および機能を総合的に理解することを目的としている。「分子－細胞－組織－器官－器官系－個体」という軸を持ってwhole bodyとして考える力を培う。

(2) 授業の概要

「解剖学総論」、「発生学」、「運動器系」、「循環器系」、「呼吸器系」、「消化器系」、「泌尿器系」、「生殖器系」に分けて人体の構造と機能を解説していく。

2. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習・復習等

大学教養程度の生物学、解剖学の知識を必要とする。各自の持っている教科書や下記に挙げる参考書で予習を行うこと。

(2) 他の授業科目との関連性

人体の構造と機能を学ぶことは、全ての医学研究の基礎になるため、十分理解することが重要となる。

(3) その他

特になし

3. 成績評価基準

授業への出席、受講態度、討論態度、レポートにより総合的に評価する。

4. 教科書・参考書など

1. 解剖実習の手びき（寺田春水、他）南山堂
2. 解剖学講義（伊藤 隆）南山堂
3. 解剖学カラーアトラス（横地千仞）医学書院
4. ラングマン人体発生学（安田峯生）メディカル・サイエンス・インターナショナル
5. 人体解剖学実習－要点と指針（大谷 修）南江堂
6. できるわかる人体解剖実習（宮木孝昌）哲学堂出版
7. トートラ 人体の構造と機能（大野忠雄、他）丸善

8. 骨学実習の手びき (寺田春水、藤田恒夫) 南山堂
9. Gray's Anatomy (Williams) Churchill Livingstone
10. グレイ解剖学アトラス 原著第1版 エルゼビア・ジャパン

5. 授業内容・日程

回	月 日	時 限	内 容	担当者
1	9月7日(水)	3	解剖学総論	伊 藤
2	9月14日(水)	3	発生学	林
3	9月21日(水)	3	運動器系	林
4	9月28日(水)	3	循環器系	平 井
5	10月5日(水)	3	呼吸器系	平 井
6	10月12日(水)	3	消化器系	曲
7	10月19日(水)	3	泌尿器系	宮 宗
8	10月26日(水)	3	生殖器系	李

<様式1>

平成 年 月 日

東京医科大学長 殿

指導教授印

大学院医学研究科医科学専攻（修士課程）
選択科目 履修届

入学年度 平成 年度入学

第 学年 学籍番号

専攻 医科学専攻

研究分野

フリガナ
氏名 印

研究題目	
------	--

下記科目を履修したいので、お届けいたします。

希望する科目	授業科目の名称	配当年次	単位数
	生体病態医学特論Ⅰ (リウマチ膠原病・神経内科学)	1年後期	1
	生体病態医学特論Ⅱ (法医学)	1年後期	1
	生体病態医学特論Ⅲ (循環器病学)	1年後期	2
	生体病態医学特論Ⅳ (呼吸器・甲状腺学)	1年後期	2
	医学教育学特論	1年後期	2
	医療安全学特論	1年後期	2
	人体構造学特論	1年後期	1

※「希望する科目」欄、2単位以上の科目に○印をしてください。

(注1) 4月14日までに医学科学務課に提出してください。

(注2) 選択科目の履修登録の変更は、4月21日までとします。

東京医科大学大学院研究科委員会規程

(目 的)

第1条 この規程は、東京医科大学大学院学則第49条第3項の規定に基づき、研究科委員会に
関して必要な事項を定めることを目的とする。

(構 成)

第2条 研究科委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 研究科主任
- (3) 専攻主任
- (4) 本研究科の授業又は研究指導を担当する主任教授
- (5) その他研究科長が指名する者

(審議事項)

第3条 研究科委員会は、研究科に関する次の事項を審議する。

- (1) 大学院学則その他大学院に係る規程等の制定、改廃に関する事項
- (2) 大学院の組織の設置及び改廃に関する事項
- (3) 入学、転学、退学、休学及び留学等学生の身分に関する事項
- (4) 課程の修了及び学位の授与に関する事項
- (5) 入学試験に関する事項
- (6) 学生の試験及び評価に関する事項
- (7) 教育課程の編成に関する事項
- (8) 学生の表彰及び懲戒に関する事項
- (9) 学生の厚生補導に関する事項
- (10) 大学院に係る教育職員の任免に関する事項
- (11) 学生納付金の減免に関する事項
- (12) その他、大学院の教育・研究に関する学長の諮問事項

(招 集)

第4条 研究科委員会は、研究科長が招集し、議長となる。

2 研究科長に事故があるときは、研究科長があらかじめ指名する者が議長の職務を代行する。

3 研究科委員会は、構成員の過半数の出席がなければ、会議を開き議決することができない。

(議 決)

第5条 議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(事務の処理)

第6条 研究科委員会の事務は、教育部医学科学務課において処理する。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、研究科委員会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

平成28年度 医科学専攻（修士課程）担当者（OA）一覧

No	科 目	職	氏 名	曜 日	時 間	場 所	そ の 他
1	医学特論Ⅰ（総論）	主任教授	松岡 正明	金	15:00 ~ 18:00	薬理学教室	
2	医学特論Ⅰ（総論）	主任教授	宮澤 啓介	月	17:00 ~ 19:00	第一校舎1階・ 生化学分野主任教授室	
3	医学特論Ⅰ（総論）	主任教授	松本 哲哉	月・火	11:00 ~ 12:00	微生物学分野教授室	
4	医学特論Ⅰ（総論）	主任教授	黒田 雅彦	月～金	9:00 ~ 17:00	主任教授室	
5	医学特論Ⅰ（総論）	主任教授	小西 真人	木	16:30 ~ 17:30	細胞生理学・ 主任教授室	
6	医学特論Ⅰ（総論）	教 授	善本 隆之	月～金	16:00 ~ 17:00	中央校舎4階教授室	
7	医学特論Ⅱ（生命倫理）	兼任教授	黒須 三恵	木	12:10 ~ 13:00	非講師控室	
8	医学特論Ⅱ（生命倫理）	講 師	倉田 誠	火 金	11:00 ~ 13:00 15:00 ~ 17:00	倉田研究室	m-kurata@tokyo-med.ac.jp
9	医学特論Ⅱ（生命倫理）	主任教授	黒田 雅彦	月～金	9:00 ~ 17:00	主任教授室	
10	医学特論Ⅲ（医学英語）	准 教 授	R.ブルーヘルマンズ	火	8:00 ~ 13:00	医学教育学分野	
11	医学特論Ⅲ（医学英語）	准 教 授	小林 了	適宜	～	第一校舎2階 微生物学教室	ryo@tokyo-med.ac.jp
12	医学特論Ⅲ（医学英語）	主任教授	松岡 正明	金	15:00 ~ 18:00	薬理学教室	
13	医学特論Ⅲ（医学英語）	主任教授	松本 哲哉	月・火	11:00 ~ 12:00	微生物学分野教授室	
14	医学特論Ⅲ（医学英語）	教 授	大楠 清文	月～金	9:00 ~ 17:00	2階微生物学教室	
15	医学特論Ⅳ（医科学一般）	教 授	普神 敬悟	火	12:30 ~ 18:00	化学教室第二研究室	
16	医学特論Ⅳ（医科学一般）	准 教 授	太田 一正	月	17:00 ~ 18:00	第三校舎4階生物学 第2研究室	
17	医学特論Ⅳ（医科学一般）	教 授	神田 茂雄	金	16:30 ~ 17:30	数学研究室	
18	基礎生命科学特論	准 教 授	太田 一正	月	17:00 ~ 18:00	第三校舎4階生物学 第2研究室	
19	分子細胞生物学特論	主任教授	宮澤 啓介	月	17:00 ~ 19:00	第一校舎1階・ 生化学分野主任教授室	
20	分子細胞生物学特論	講 師	阿部 晃久	月・水・ 金	17:00 ~ 19:00	生化学第一実験室	
21	分子細胞生物学特論	准 教 授	平本 正樹	水	15:00 ~ 18:00	生化学第一研究室	
22	分子細胞生物学特論	助 教	森谷 昇太	月～金	9:00 ~ 18:00	第一校舎3階 生化学集会室	moriya@tokyo-med.ac.jp
23	分子細胞生物学特論	講 師	高野 直治	水	15:00 ~ 18:00	生化学第一研究室	
24	分子病態学特論	教 授	大屋敷純子	水	15:00 ~ 17:00	大学病院 教育研究棟14階	
25	分子病態学特論	教 授	善本 隆之	月～金	16:00 ~ 17:00	中央校舎4階教授室	
26	分子病態学特論	教 授	中島 利博	月～土	平日9:00 ~ 平日17:00 土曜9:00 ~ 土曜12:00	自主学习館4階 中央校舎1階or4階	marlin@tokyo-med.ac.jp
27	分子病態学特論	准 教 授	稲津 正人	木	17:00 ~ 18:00	第三校舎3階稲津居室	
28	生体機能医学特論Ⅰ（分子生理学）	主任教授	林 由起子	月～金	10:00 ~ 16:00	基礎新館5階集会室	
29	生体機能医学特論Ⅰ（分子生理学）	准 教 授	佐々木光美	月～金	10:00 ~ 16:00	基礎新館5階集会室	
30	生体機能医学特論Ⅰ（分子生理学）	講 師	川原 玄理	月～金	10:00 ~ 16:00	基礎新館5階集会室	
31	生体機能医学特論Ⅱ（分子病理学）	主任教授	黒田 雅彦	月～金	9:00 ~ 17:00	主任教授室	
32	生体機能医学特論Ⅱ（分子病理学）	准 教 授	倉田 厚	水	9:00 ~ 17:00	分子病理学5研	
33	生体機能医学特論Ⅱ（分子病理学）	講 師	高梨 正勝	火・水・ 木	14:00 ~ 18:00	分子病理学第9研究室	
34	生体機能医学特論Ⅲ（神経解剖学）	主任教授	石 龍徳	月	17:00 ~ 18:30	第一校舎2階教授室	
35	生体機能医学特論Ⅲ（神経解剖学）	准 教 授	大山 恭司	火	16:00 ~ 18:00	組織・神経解剖学 第2研究室	
36	生体機能医学特論Ⅲ（神経解剖学）	講 師	北澤 宏理	金	16:00 ~ 17:00	組織・神経解剖学 第7研究室	
37	生体機能医学特論Ⅳ（分子薬理学）	主任教授	松岡 正明	金	15:00 ~ 18:00	薬理学教室	

平成28年度 医科学専攻（修士課程）担当者（OA）一覧

No	科 目	職	氏 名	曜 日	時 間	場 所	そ の 他
38	生体機能医学特論Ⅳ(分子薬理学)	准教授	稲津 正人		17:00 ~ 18:00	第三校舎 3階稲津居室	
39	生体機能医学特論Ⅳ(分子薬理学)	講 師	橋本 祐一	金	13:00 ~ 17:00	基礎新館 6階 薬理学分野集会室	
40	生体機能医学特論Ⅴ(感染症学)	主任教授	松本 哲哉	月・火	11:00 ~ 12:00	微生物学分野教授室	
41	生体機能医学特論Ⅴ(感染症学)	教 授	大楠 清文	月～金	9:00 ~ 17:00	2階微生物学教室	
42	生体機能医学特論Ⅴ(感染症学)	准教授	小林 了	適宜	～	第一校舎 2階 微生物学教室	ryo@tokyo-med.ac.jp
43	生体機能医学特論Ⅴ(感染症学)	講 師	宮崎 治子	適宜	～		hmiya@tokyo-med.ac.jp
44	生体機能医学特論Ⅵ(分子免疫学)	主任教授	横須賀 忠	月～金	8:30 ~ 23:00	中央校舎 4階教授室	
45	生体機能医学特論Ⅵ(分子免疫学)	講 師	矢那瀬 紀子	月～金	9:00 ~ 17:00	第三校舎 4階 免疫学研究室	
46	生体機能医学特論Ⅵ(分子免疫学)	講 師	秦 喜久美	火～金	9:00 ~ 17:00	第三校舎 4階	
47	公衆衛生学特論	主任教授	井上 茂	木	10:30 ~ 11:30	第一校舎 3階公衛内	
48	公衆衛生学特論	講 師	安部由美子	木	10:30 ~ 11:30	公衛内	
49	公衆衛生学特論	講 師	小田切優子	木	10:30 ~ 11:30	第一校舎 3階公衛内	
50	公衆衛生学特論	講 師	高宮 朋子	木	10:30 ~ 11:30	第一校舎 3階公衛内	
51	公衆衛生学特論	講 師	福島 教照	木	10:30 ~ 11:30	公衆衛生学分野研究室	
52	生体病態医学特論Ⅰ (リウマチ膠原病・神経内科学)	准教授	沢田 哲治	月	14:00 ~ 15:00	10階・第3内科医局	
53	生体病態医学特論Ⅰ (リウマチ膠原病・神経内科学)	准教授	赫 寛雄	火・水・ 金	16:30 ~ 17:30	神経内科医局	
54	生体病態医学特論Ⅱ(法医学)	主任教授	吉田 謙一	月	10:00 ~ 11:30	法医学教授室	
55	生体病態医学特論Ⅲ(循環器病学)	主任教授	山科 章		～	教育研究棟10F応接室	d-gakumu@tokyo-med.ac.jp
56	生体病態医学特論Ⅲ(循環器病学)	教 授	近森大志郎	金	10:00 ~ 11:00	循環器内科研究室	
57	生体病態医学特論Ⅲ(循環器病学)	教 授	富山 博史	月	16:00 ~ 17:00	新医局・研究棟 7階	
58	生体病態医学特論Ⅲ(循環器病学)	准教授	高田 佳史	水	17:00 ~ 18:00	7階医局	
59	生体病態医学特論Ⅲ(循環器病学)	講 師	五関 善成	月・金	17:00 ~ 19:00	医局棟 7階 循環器内科医局	
60	生体病態医学特論Ⅲ(循環器病学)	講 師	肥田 敏	月・水・ 木・金	14:00 ~ 17:00	7階医局	
61	生体病態医学特論Ⅳ (呼吸器・甲状腺学)	主任教授	池田 徳彦	木	16:00 ~ 17:00	外科医局	
62	生体病態医学特論Ⅳ (呼吸器・甲状腺学)	教 授	筒井 英光	火	16:00 ~ 17:00	新教育研究棟 9階 外科医局	
63	生体病態医学特論Ⅳ (呼吸器・甲状腺学)	教 授	大平 達夫		～		d-gakumu@tokyo-med.ac.jp
64	生体病態医学特論Ⅳ (呼吸器・甲状腺学)	教 授	梶原 直央	月	16:00 ~ 17:00	9階外科医局	手術等不在有り
65	医療安全管理学特論	主任教授	三木 保	月	14:00 ~ 16:00	三木教授室	その他は応相談
66	医療安全管理学特論	講 師	浦松 雅史		～		d-gakumu@tokyo-med.ac.jp
67	医療安全管理学特論	兼任講師	和田 淳		～		d-gakumu@tokyo-med.ac.jp
68	医学教育学特論	教 授	泉 美貴	月～金	9:00 ~ 17:00	自主自学館 9階	03-3342-6111(内線2041) mizumi@tokyo-med.ac.jp
69	医学教育学特論	兼任教授	大滝 純司	金	15:30 ~ 16:30	教育研究棟 7階・ 総合診療科医局	
70	医学教育学特論	特任教授	荒井 貞夫	月	16:00 ~ 17:00	国際ビル 5階 教育IRセンター	
71	医学教育学特論	兼任教授	三苦 博		～		d-gakumu@tokyo-med.ac.jp
72	医学教育学特論	准教授	R.ブルーヘルマンズ	火	8:00 ~ 13:00	医学教育学分野	
73	人体構造学特論		担当者全て	月～金	9:00 ~ 17:00	人体構造学分野	anatomy@tokyo-med.ac.jp

